

別冊 I メイト便り第 20 号

# I メイト 交流の愉しみ

—アジ風に乗って I メイト交流はひろがる—

特集：アジアの女性活躍について考える

NPO 法人 **アジアの新しい風**

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414  
TEL/FAX 03-5426-6714 <http://www.npo-asia.org>

2024 年 10 月 10 日 発行

## 目 次

まえがき	副理事長 奥山 寿子	・・・・・・・・・・	3
1. Iメイト学生			
・清華大学	馬 紫晗	・・・・・・・・・・	4
	雷 雅然	・・・・・・・・・・	6
	李 嘉澍	・・・・・・・・・・	8
・タマサート大学	シャノンヤー・キーラー	・・・・・・・・・・	10
	シャリサー・メーターピスイット	・・・・・・・・・・	12
	ピムナリー・ウイリヤアムパイウオン	・・・・・・・・・・	14
・貿易大学	レ・グエン・トウエット・ゴック	・・・・・・・・・・	16
・UNPAD	ナビーラ ファウジア	・・・・・・・・・・	18
・架け橋グループ	金 佑真	・・・・・・・・・・	21
2. 元Iメイト・オンライン座談会			
	司会 上 高子		24
清華大学	王 鶴		
タマサート大学	シワポーン・テッパラット		
貿易大学	レー・ゴック・トウイ		
UNPAD	ナディア シャフィラ スプラブ		
3. 元Iメイト学生 (OBOG)			
・清華大学	金 秀仁	・・・・・・・・・・	36
	鐘 希君	・・・・・・・・・・	37
・タマサート大学	ドゥアンケーオ・スットプラータナー	・・・・・・・・・・	38
・貿易大学	ライ・ティ・ジュエン	・・・・・・・・・・	39
	チャン・トウイ・リン	・・・・・・・・・・	40
	グエン・トック・マイン	・・・・・・・・・・	41
	グエン・ダン・ソン		
・UNPAD	アウリア リフキアナ アジクリ	・・・・・・・・・・	43

\* UNPAD はパジャジャラン大学

\* 架け橋グループは 清華大学大学院

4. I メイト会員・オンライン座談会		・・・・・・・・ 44
司 会	小関 高志	
正会員	中本 寧	
正会員	鎮目 博之	
正会員	北郷 和博	
正会員	乃万 克也	
正会員	斎藤 利治	
5. 編集後記	名誉顧問	上 高子 ・・・・・・・・ 54
	理事	小関 高志
	正会員	原谷 洋美



## まえがき

副理事長 奥山 寿子

NHKの朝の連続テレビ小説「虎に翼」をご覧になった人は多いと思います。強い虎に翼をつけたら、さらに強くなるという意味で、中国の思想書『韓非子』に由来するとされています。女性初の弁護士、判事、裁判官になった三淵嘉子さんがモデルで、ドラマの主人公、寅子さんと虎をもじったのだと思いますが、彼女は強い女性と言うより男性社会の中で真摯に難題に向き合い、もがいて女性の道を切り開いてきた女性と言う印象です。このドラマが、今年の別冊Iメイト便りのテーマとして、「女性活躍社会」を取り上げるきっかけとなりました。

9月7日付けの日経新聞に「女性活躍を進めた出来事」としてランキングが特集されていました。1位は1945年の「婦人参政権が認められる」、2位は1946年の「日本国憲法が公布され、法の下での平等を明文化」。3位は1947年の「教育基本法を制定」で良妻賢母主義からの転換、と続きます。上位3位まではすべて戦後の出来事で、「こんなにも長年差別されていたとは知らなくてショックだった」と20代の女性の声がありました。日本に限らず世界各国で女性が男性と同等に認められるには、ここまで相当な時間を要しています。三淵さんはじめ女性活躍の先鞭をつけた多くの女性たち、研究者、活動家、運動を支えてきた人々の力がありますが、まだ道半ばという感じがします。

三淵さんは家庭裁判所で判事の職を得た後、女性の活躍について次のように述べています。「女性が職場において十分に活躍できない原因の一つに、男性側の女性への優しいいたわりからくる特別扱いがあり、女性に対しては男性側が必要以上にいたわりの心遣いをし、それが女性を扱いがたいと思わせていたのだろうか」。しかし彼女の苛立ちは、特別扱いを甘んじて受け入れている女性にも向いていました。

今回、いただいた原稿のなかにも、男性の「いたわり」を当然のこととして受け入れる女性側にも問題があると書かれた人がいました。さらに女性優遇策がそれを逆差別であるという反論する男性の声も取り上げています。

理想的なジェンダー平等とは何か。肉体的な差異があることを認めたくらんで、男女格差をなくすというのですが、どこに着地点を見いだすのか、堂々巡りのような疑問が湧いてきます。憲法や民法の改正による女性の権利獲得、男性優位の社会を保ってきた社会の制度改革と男性たちの意識改革がよく言われていますが、男性、女性ともにそれぞれの特質や個人差もあり、必ずしもすべて同じに、と叫んでいるわけではありません。やりたいことを制限されることなく自由に選べて、それ相当の報酬や地位が与えられる、それが当たり前前の社会になってほしいと思っています。

今回の原稿をくださった会員や若いIメイト学生やOBOGたちから、このテーマで話し合えたのはよかったという声をたくさん聞かせていただきました。この問題を古い社会制度の打破という視座だけではなく、男女の共存できる社会（アジア風の目指す多文化共生）を実現するという観点からも、今後ともIメイト交流のテーマの一つとして話し合っていきたいと願っています。

ご協力くださったOBOGの皆さん、現Iメイト学生、そして会員の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

### 清華大学 馬 紫晗さんと荒木春洋さんの交流

#### 荒木→馬紫晗

中国における女性活躍や男女の差別、家庭での男女役割などについて教えてください。

#### 馬紫晗→荒木

有名な女性企業家として、董明珠、宗馥莉、孟晚舟などがいます。また、女性アスリート、郭晶晶を思い出しました。しかし、政治に関わる女性は依然として少ないと感じます。

有名人以外、私は女性に関する保護に注目しています。学校や職場における女性に対するセクハラや家庭内暴力などのニュースが増え、それに関連する法律や規制も進歩しています。一週間ほど前、一人の女性博士が weibo (中国版 Twitter) で実名を出して指導教授のセクハラを告訴しました。その教授はすぐに処分を受けました。

でもよく見ると、女性に対する差別はまだ多く存在します。例えば、「白幼瘦」という美的基準(日本でもそうかもしれませんが)や未婚未育の女性が職場で受ける差別などです。中国と日本には大きな違いはないと思います。これが、私が上野千鶴子の本に共感する理由かもしれません。不平等の原因については、ゴールディン氏が指摘する「チャイルドペナルティー (Child Penalty)」が示すように、歴史的、生理的、社会的な構造から来ると思います。

一方、家庭内では、女性がより多くの家事や育児を担うと思います。しかし、私の周りの同級生を見ても、母親が専業主婦である割合は高くありません。以前、祖父母が同居して子供の世話をするかどうかについてメールで話し合ったことがありますね。中国では、家庭の役割の一部は祖父母が担っていると思います。子供がまだ幼く、一日中誰かが世話をする必要のある段階では、一般的に祖父母が世話をします。これにより、出産が女性の仕事に与える影響は大幅に軽減されます。でも、家庭に子供が二人以上いる場合や、祖父母が手助けできない家庭では、女性は仕事を辞めて家で子供を世話しなければならないかもしれません。



<清華大学で荒木夫妻と馬さん(右)>

女性にとって、「良い結婚は良い仕事より重要」という言葉があります。お金持ちの夫と結婚することが、女性の人生目標と見なされています。私は、まず自分自身の仕事を持つことが重要だと思います。そうすることで、結婚しても、常に自分の独立性を保つことができます。でも、良い結婚は確かに重要だと思います。

#### 荒木→馬紫晗

女性に対するセクハラや家庭内暴力などを許さない社会風潮が高まっているとのことですが

が、日本も全く同様です。特に、セクハラ疑惑が報道されると、政治家や公務員、企業トップなどの場合、一発アウトになるケースが最近増えています。

5月に清華大学を訪問した折りに数年ぶりに再会した中国人の若い友人は、まだ子供が小さく、同居の親（祖父母）に助けてもらいながらもほぼ育児にかかりきりの生活で、外に働きに行く余裕がないと言っていました。中国での保育所の状況はいかがですか？また、言い方は悪いですが、若い人の中に小さい子供の育児や世話を同居の親（祖父母）に丸投げするような風潮はありませんか？

まず自分自身の仕事を持つことが重要だと考える馬さんに全く同感です。『恒産なくして恒心なし』（孟子）は今も大事な教えですね。

## 馬紫晗→荒木

私の認識では（これが正確ではないかもしれませんが）、子供を世話する方法には以下のようなものがあります。1. 専業主婦または専業主夫。2. 祖父母が世話をする、つまり家族全員と一緒に住む。3. 保育所に預ける。4. 家政婦。

私の周りの状況について言えば、子供を3歳以前に保育所に預けることはあまり見られず、祖父母が世話をするのが一般的です。近所では、昼間におじいちゃんやおばあちゃんがベビーカーを押して散歩しているのをよく見かけます（統計データによると、60%以上の家庭が祖父母によって子供を育てられているそうです）。保育所を選ばない理由として、一つは料金が高く、一般の家庭には負担が大きいこと、もう一つは関連制度がまだ成熟しておらず、子供の安全が十分に保障されていないことが挙げられます。

「若者の間で小さな子供の育児や世話を同居する親（祖父母）に丸投げするような風潮」は、確かに存在すると私は感じています。余裕がありながらも孫を世話しない祖父母は、「無責任」と見なされることが多いと思います。このような考え方は、中国の伝統文化と関係があるかもしれません。「生育」は家族の継続であり、全家族がそれに努力する必要があるとされています。育児の責任以外にも、中国の高齢者は一般的に子供を育てることに積極的で、自分の孫を世話したいという思いがあります。家族全員が楽しく一緒に生活することは、多くの人々の老後の理想的な状態です。でも、今の家庭は徐々に「核家族化」へと進んでいて、未来がどうなるのかは分からないですね。

## 荒木→馬紫晗

中国の子供の育て方の現状と将来の課題がよく分かりました。これも家庭における女性の役割のあり方と関連して今後変わっていきそうですね。



## 清華大学 雷 雅然さんと川口祐子さんのメール交流

### 川口→雷雅然

10月発行の別冊(1年に一回発行)では「アジアの女性活躍を考える」というテーマで発行します。

日本の場合ですが、女性の社会進出は多くなっていますが活躍というとまだまだですね。特に社長などのトップは少なく、大企業の女性トップ就任はニュースになるくらいです。

反対に中国では以前から共働きが普通で、女性でも企業や役所でトップに就いている方が多いと思われます。その反面、若い人で専業主婦に憧れるという声もあると聞いたことがあります。

現在の中国がどんな様子か、知りたいと思います。

中国の女性はどのように社会で活躍していますか。社会で昇進したり活躍することについて男女の差別はありませんか。もし差別があるとすれば、その理由は何でしょうか。また家庭での男女の役割の違いなどありますか。ぜひ教えてください。

### 雷雅然→川口

近年、中国の女性は、かつて家庭に縛られていた時代から抜け出すようになり、かつ自らの力で社会の中核へと躍進している。中国の女性は、今労働力人口の43.7%、または企業における従業員監督者の38.2%を占めている。これらの割合は昔より高くなってきている。彼女たちは職場での活躍にとどまらず、起業の分野でも輝きを放ち、女性によるスタートアップ企業の増加も見えてきました。

このような喜ばしい変化は、いくつかの要因が総合的に相重なっている結果であると思っています。その中で、以下三つの主な方面をお話したいとおもいます。

まずは、国家が積極的な政策を行うこと。中国は中国共産党の指導の下の社会主義国であり、革命により女性を抑圧してきた封建制度が覆され、平等かつ公正な社会を目指す社会主義を全社会でよく受け入れています。従って、男女平等の追求は勿論のことです。建国以来、深刻な労働力不足により、国家建設には女性の力が必要でした。それによって中国の女性はみんな様々な仕事に参加し、夫婦共働きも一般的になりました。また、今も進んでいる都市化および高等教育の機会拡大は、女性に多様な職業選択の機会を提供しています。その時よく言われた「女性は天の半分を支える」というスローガンは、今でも非常に有名です。

次は、社会における思潮の変化。国際交流の拡大のおかげで、西洋から伝わったフェミニズムはたくさんの女性に大きな影響を与えました。例えば、「MeToo」というフェミニズム運動は、中国でもとりわけ話題になり、ネット上の討論の形で女性も男性もみんなの思想を刺激しています。このような社会的変容が、中国女性の活躍を後押ししているとおもう。

さらに、女性自身の変化です。就職活動に積極的な参加により、女性は経済的に自立するようになって、理不尽なことを断る勇気を持つようになりました。そして、モデルとしてその他の女性たちを支える優秀な女性もたくさんいます。その中で、中国で一番有名なのは中国初の無料の女子高校を創設した「張桂梅」です。その女子高校の学生は毎日約5時に起き、夜12時過ぎに就寝しなければなりません。そんなに厳しいのは、そこに住む少女たちを救うための

ことです。雲南省の貧乏な山奥に住む少女たちは、大学に進学するのは男のことと両親から言われ、高校を卒業するとすぐに結婚させられることが大変多いです。張さんは少女たちをそのような状況から救うため、無料の女子高校を創立し、40年間、山奥で過ごしています。張さんは肺気腫や小脳萎縮症などの23種類の疾患を抱えていますが、今まで教壇に立ち続けています。

その女子高校の校訓は「私は生まれながらにして高い山であり、谷間を流れる溪流ではない。私は山々の頂に立ち、平凡な谷間を眺めたい」である。今そのような女子高校が存在するのは、女性たちが十分な機会を受けていないからです。私は河南省の農村で、「良い嫁になれ」または「良い姑になれ」というスローガンを見ました。なかなか気持ちが良くなかったです。どうして「良い夫になれ」あるいは「良い義父になれ」というスローガンがないのでしょうか。

女性たち、一緒に勇んで自分の夢を追い求め、より良い社会を変えようではありませんか。

## 川口→雷雅然

雷さんのメールを読んで今まで漫然としていた中国女性の社会進出のイメージが具体的なものとして理解できました。共働きの風潮が長らくある土壌だから女性が活躍しているのではなく、今のような状況になるのに政策や思想の変化、そしてなにより「女性自身の変化」が大事なんだと考えさせられました。最後の方の農村のスローガンのエピソードから日本にも似たような言葉で「イクメン」や「リケジョ」が思い出されました。これも「イクジョ」や「リケダン」なんて言葉はないのはなぜかと私自身疑問でした。こういう言葉自体がない社会に変えていかなければいけないと思います。



<5月の清華大学訪問交流会で>



## 清華大学 李 嘉澍(時雨)さんと三木京子さんのメール交流

### 三木→時雨

「アジアの女性活躍について」男性の視点から少しお話を聞かせてください。中国で「活躍している女性」と言えば、李さん(以下、時雨さん)はどなたを思い浮かべますか？

### 時雨→三木

私は、中国の教育者である張桂梅先生を思い浮かべます。張先生は貧しい家庭の出身ですが、「教育が自分の人生を変えた」と感じ、2008年に貧しい家庭出身の少女たちに教育を提供する「華坪女子高等専門学校」を設立しました。この学校は無償で教育を提供し、多くの少女たちに未来の夢を持つ機会を与えています。張先生は、「感動中国 2020 年度人物」に選ばれました。また、彼女の取り組みは中国国内だけではなく国際的にも高く評価されています。

### 三木→時雨

社会で活躍する上で、男女を問わず「教育の機会」は非常に重要ですね。張先生は自らの体験から、貧しいがゆえに「教育の機会」を失いがちな少女にフォーカスしたわけですね。

時雨さんの周りの女性(ご家族、友人など)は、どのような分野で活躍していますか？

### 時雨→三木

私の親戚は、みな夫婦共働きで家庭を支え、自分の意志で選択した道を歩み、自立して生活しています。専門的な知識やスキルを身につけ、陸上交通・航空、運輸業界、小売・レストラン等サービス業界、美容・服装業界等で活躍しています。

中国で夫婦共働きの状況が多く見られるのは、お祖父さんやお祖母さんが孫を育てる習慣があることが大きな要因です。私の知る限り、日本ではこのような習慣はなく、働きながら子供を育てることは、大きな決意が必要でしょう。

### 三木→時雨

私の身近で、お祖父さん、お祖母さんがお孫さんの面倒を見ているケースもありますが、日本は核家族化が進んでいるので、多くの夫婦は保育園に子供を預け、保育園の送り迎えなども分担しながら働いています。時雨さんは、女性が社会で活躍することについて、どのような意見を持っていますか？

### 時雨→三木

私は、女性の活躍は社会の発展に不可欠だと感じています。女性の能力と貢献を認め、さらに広範な分野で女性の才能を活かすことが大切ですが、現時点では女性の活躍はまだ十分に評

働かされていないと思います。これを改善するために、教育、職業選択、昇進機会など多くの側面から積極的な措置を講じ、男女ともに同じ機会・同じ条件で働く環境を作り出す必要があると思います。また、女性自身も、自分で収入を得て経済的に自立することで、家族に依存せず、自分自身の自由を確保できます。経済的自立と職業選択の自由は、女性の社会的地位向上にもつながると思います。

### 三木→時雨

日本でも経済的自立を目指して働く女性は増えています。そして、日本の社会は少子高齢化が急激に進んで人手不足の問題が顕著化しつつあり、女性が貴重な働き手として期待されている側面もあります。実際、30～40年前と比べると、職業を持つ女性は確実に増加していると思います。

私も長い間仕事を続けてきましたが、やはり家族（パートナー）の理解や支援がなければ難しかったと感じます。時雨さんは、将来、家庭を築いたら、パートナーが社会で活躍するために、どのような支援をしたいと思いますか？

### 時雨→三木

二人の共同生活で最も重要なことは、互いの理解とコミュニケーション、そして家事、育児、新しい知識の学び、親戚との関係なども二人で一緒に行うほうが良いと思います。何が好きで、何が嫌いか、お互いのニーズや好みを明確に知り、理解し、支え合うことが重要と考えています。

### 三木→時雨

「家事、育児」のみならず、「新しい知識の学び、親戚との関係」など生活の様々な分野で一緒に楽しめたら素晴らしいですね。将来、そのような時雨さんの考えに共鳴するパートナーが、時雨さんと一緒に社会で活躍し、充実した人生を送られることを願っています。



< 5月の清華大学訪問交流会で >

## タマサート大学 シャノンヤー・キーラーさんと原谷洋美さんの交流

シャノンヤー（ジョイちゃん）→原谷

8月22日

この前泊めてもらいありがとうございました。素敵な思い出になりました。今度絶対彼氏を連れて行きます！！

さて、別冊は家庭の中の女性活用についてはいかがでしょうか。例えば、私の家は父ではなく、母が家族を支えています。そして、家族のメンバーはほとんど女性なので、家庭の中では男尊女卑はほぼないです。しかし、父の家族と会うとやはり、タイと日本はあまり変わらないと思います。女性は家事をし、男性は仕事をする。したがって、子供の頃は大人たちのそんな考え方のせいで、私はあまり兄のことが好きではなかったです。家事を手伝わせるとき、おばあさんは絶対私か妹を呼びます。家事をするのは女の仕事だから、子供の頃から身につけた方がいいと思うからです。反対に、兄は母の実家家族に育てられたので、幸いに男尊女卑の考えがなかったです。

ひろみさんの家族はどんな感じでしょうか。



原谷→ジョイちゃん

8月24日

大阪大学での留学終了、おめでとう。今日は帰国の日ですね。

勉学以外にもたくさんの学びとたくさんの遊びを通した気づきがあったと思います。ひろみさんは幼い頃にね、道草（＝目的地に達する前に時間をついやすこと）しながら楽しく帰るのが大好きでした。留学が道草とは言い難いですが、これからの人生の小さな寄り道だったのかな、と思っています。その最後に、我が家に来て貰ってありがとう。最小寄り道でしたね。日本の70歳半ば夫婦の暮らしぶりはどのように映りましたか？4日間では何も見えないかな。

西荻窪駅から我が家までの道順を、地図を見ながらジョイちゃんに教える時、裕三さん（夫）が言った「地図を読めない女性が多い」に、スカイバスに乗っている最中に「それは男だって同じことで、決め付けるのは可笑しい」と怒っていた姿が印象的でした。本当にその通りでね、いつもは隠れてはいるのだけれど、ひょっとした折に顔を出す「男尊女卑」はまだまだあると思います。例えば「新聞は夫が先」「お風呂は夫が先」と笑い話のような些細なことが、大きな亀裂になってしまうかもしれませんね。裕三さんは優しいけれど、男（＝僕）は偉いと思っているな、と感じること多いです。

ジョイちゃんの話でなるほど！と思ったことがあります。お父さんの実家は、お父さんが仕事して実権を持っていたから女性は家族のために家庭で働くこと。お母さんの実家は、今のジョイちゃんの家と同じく、お母さんが家族を養っていたから、男女関係なく外でも内でも働くこと、でしょうか。

ジョイちゃんは今、とてもフラットな家族関係で生活していますが、自分が結婚したら、どのような家庭を作りたいですか。お母さんと同じように働く女性を選びますか。



ジョイちゃん→原谷

8月27日

ひろみさんの家で泊まっていた間は色々見えましたよ。それは結婚して、ひろみさんの歳くらいまで一緒にいるなら、どのカップルでも絶対誰か一步下がってあげることです。そうしないと喧嘩になりますね(笑)。うちのおじいちゃんとおばあちゃんもそうなので、面白かったです。

私はもし今の彼氏と結婚することになったら、やはりいまは個人的にあまり子供欲しくありません。なぜかという、今の状況ではおそらく子供に良い環境を作れないからです。たぶん私と同じことを考えている若者が多いので、現在の社会は少子化になったのです。少子化が問題だと分かっている、政府からの支援も社会的な支援も足りず、子供が居ないほうが良いと思っている人も少なくないでしょう。しかし、もし本当に子供できたら、私は私だけの思いではなく、ちゃんと彼氏の意見を聞きたいです。つまりどちらかが一方的に判断し、家族のことを決めるのではなく、お互いの気持ち、考えを揃えて、夫婦平等の家族を作りたいと思います。

原谷→ジョイちゃん

8月30日

そうですね。誰かが一步下がることも必要ですが、それが若い夫婦では、ワンオペ育児などの不満につながるのでしょうか。文句を言えない植物は、環境に適応することが個体を存続させる術だと言いますが、同じ生物でもそれでは多くの人の心は大噴火します。上手く棲み分ける社会はやはり、老若男女関係なくすべての人間が平等であることだ、とジョイちゃんに賛成します。

今は結婚しても子供が欲しくない、のは思い切った覚悟だと思います。結婚生活が現実になっても未だその思いが持続していたら、選択肢はグーンと広がることなので、自分の進みたい途や仕事を開拓してください。身近にお母さんの見本がありますね。

ところで、タイでは結婚したときには、男性の姓を名乗るのですか？家制度の強い日本では、結婚後は婚家の姓になることが一般的です。未だに選択的夫婦別姓は揺れています。結婚後もジョイちゃんのようにバリバリ働きたい女性は、やっと旧姓でも認められるようになりつつあります。タイでは生まれた時に付けて貰うニックネーム(=ジョイちゃん)は、結婚後もずっと持っているのですよね。姓のクッションとして良いなと思いますがどうですか。

ジョイちゃん→原谷

9月1日

タイでは基本結婚すると男性の姓を使います。タイの法律では、もし、男性の姓を使いたくない場合は変えなくてもいいです。もちろん、子供は男性の姓を使います。しかし、子供に女性の姓を使っても問題ありません。

ニックネームは正式な書類などに使わないので、勝手に変えた人もいます。ニックネームがあっても、家族の中で別の呼び方でお互いを呼ぶ家族も少なくないと思います。したがって、ニックネームというのはかなりカジュアルな感じです。

男性、女性のどちらの姓を選択するにしても、結局人間は個人で存在するものだから、自分を磨いて社会でも家庭でも活躍したいと思っています。



## タマサート大学 シャリサー・メーターピスイット (ハーブちゃん) と 含本一雄さんの交流

### ハーブちゃん→含本

あと 25 日で日本に行きます。楽しみにしています！  
女性活躍についてのやり取りをしてみましょう。女性の活躍はどこでも見つかると思います。

私の人生の 20 年間、何度も女性から助けられて、女性にインスピレーションを受けました。それが私の女性活躍の体験かもしれません。

私は出かける時、タイでも日本でも、歩いている人を見ると、その人の個性を感じます。服とアクセサリが好きな私にとっては、ファッションは自己表現の一つです。私が自分をオシャレに着飾るのが好きなものと同じくらい、女性たちが服を通して自分を表現するのを見るのが好きです。小さなものに美しさを見つけ、自分が好きなことや興味があることに気づき、それを追求することが力になると思います。自由に自分を表現できる時、自身が輝きます。



私はその女性たちを見て、偏見にとらわれず、自分の好きなことを見つけて、自分に似合う服を着て、新しいことをやってみることに自信が持てるようになりました。

女性の活躍は物理的なものだけではなく、私は一人の女性として、その人の友達やキャラクターも私の心を癒してくれます。疲れた時、または落胆した時は、友達から優しい言葉をもらって、「あー、私は大丈夫かも。」と考えて、力が戻った気がします。私も他の人をサポートできる優しい友達になりたいです。

漫画を読む時、またはアニメを見る時、多くの人は自分と似ているキャラクターを持っていると私は信じています。

あるシーンもある対話も、同じ名前じゃないのに、同じ人生でもないのに、見たら、または聞いたら、「あー、私は一人じゃなんだ」と考えて、なんとなく少しずつ心が前より軽くなりました。私は諦めずに自分自身に忠実であり続ける人になりたいです。

その気持ちから、落としたものが戻ってくる、または何かを理解する、または探したものをを見つける、または今まで知らなかったことに初めて気づくかもしれません。

悩んだ時も困った時もこの女性たちは私に毎日自分と他の人について学び、安全と心が安心できる空間を与えてくれました。これが私の自分に近い女性活躍です。

含本さんは女性活躍について、何を思いますか？

### 含本→ハーブちゃん

早速、女性の活躍についてのメールを頂きありがとうございます。  
ハーブちゃんのメールに感動を覚えるくらい素晴らしい考えを持っていると思いました。

実は、僕も同様な考えを持っています。と言うのは、女性とか男性とか、言う前に人間として、人に優しく円満に接し合える自分でありたいと常々思っているからです。

しかし、歴史を見ても女性は男性に比べられ、色々制限をされてきているのも事実です。僕は、男女は、絶対に同権であり平等でなければならないと考えますが、同質ではないと思います。端的に言えば、男性は子供を産めません。でも、互いに相手のことを理解し、思いやり、尊重し合い、尊敬し合えるように、自ら努め、行動することが大切だと思います。

結婚式に招待され、スピーチを依頼された場合『『3つのS、すなわち、信頼・尊重・尊敬』を心掛ければ、素晴らしい2人でいられるでしょう』と述べています。そのような基本的な考えをベースに、社会が変化してきていると思いますが、ハーブちゃんは、今後、どのような女性活躍社会になればいいと思いますか？



### ハーブちゃん→含本

「3つのS、すなわち・信頼・尊重・尊敬」はとても役立つ論理的な概念です。初めて聞きました。ありがとうございます。私も人に優しく円満に接し合える自分でありたいです。

男女平等は目標ではなく、現実にある社会だと思います。教育、職場、リーダーシップなど、女性が平等に機会にアクセスできる環境を作ることです。社会の見方を変え、女性のポテンシャルを制限するステレオタイプを打ち破ることも大切だと思います。

多くの違う意見を尊重することと、男性と女性の両方に現状にチャレンジすることをサポートすることと、相互尊重とチームワークを作る女性活躍社会になるといいと思います。そうすると、違いを踏まえてお互いを尊重し理解し合う平和で幸せな社会になると思います。

私はまだそんなにうまく説明をできていないかもしれませんが、私の考えを交換する機会をくれてありがとうございます。

### 含本→ハーブちゃん

素晴らしい考えを持っていると感じました。僕も同じように男女関係なく、お互いを思いやり、平等に機会が与えられ、行動できる社会がいいと思います。

まだまだ時間がかかるとは思いますが、人口の半分を構成する男女が、平等でジェンダーレス社会の実現が、ゆたかで暮らしやすい平和な社会を作り出すと思います。



## タマサート大学 ピムナリー・ウイリヤム・パイウォン（ゲームさん） と含本一雄さんの交流

### 含本→ゲームさん

これまで女性活躍社会について、やり取りしていなかったと思いますが、これを機会に、意見を交換してみませんか。

### ゲームさん→含本

まず、タイの社会で女と男の差を感じたことがある経験について話したいと思います。例えば、女より男のほうが自由に一人で旅行や、行きたい場所などに行くことができます。特に夜の時間は危ないです。両親は娘が心配で、行くのを禁止していたりします。これは体の制限も関係があります。それに、女性は気をつけなければならないことが多いです。つまり、女性が強くても、男のほうが両親が安心できるという感じでしょう。さらに、昔から家事は女性の役割と言われていました。アジアの家族は昔女性は子供の世話と家事を担当して、男性は仕事をしていました。でも、時代の流れで女性はいい教育を学んで、男性と同じいい仕事ができます。



社会もこの時代の家族もだんだん変わると思います。タイの家族は今家庭によって違うが、女性は家事をしなければならないと思う家庭もまだあります。結局、これは相手の気持ちを大切に考えるのが一番重要です。男性は何をしたらいいか、女性は何をしたらいいかを決めないで、自分のしたいことができたなら、責任を取る限り、いい家族になれると思います。では、日本ではこのような女性の役割が変わりましたか？何が変わりましたか？それとも何がまだ変わりませんでしたか？日本で感じられること、教えていただけると嬉しいです。

### 含本→ゲームさん

男女の役割について、以前の日本でもタイと同じような状況でした。1985年に男女雇用機会均等法と言う法律ができて、雇用において男女において差別してはいけないことになりました。僕が結婚したのは1985年です。結婚する時、パートナーと話合って、僕は収入を得るために会社で働くこと、パートナーは働かず、家事を仕事とすることで合意し、結婚しました。僕は家事も外で働くのと同様の立派な仕事であること。僕の仕事が営業職で帰宅時間が遅く、家事をほとんどできないという現実がありました。つまり、夫婦が外で働いた場合、女性に負担が多くかかることが予想できたため、そこで二人の仕事の分担を水平分担と垂直分担の選択をしたのです。男女は同権であり平等であるけど同質ではないと思っています。女性にしか子供を産むことができません。筋力は一般的に男性の方が勝っています。男女ともにそのことを理解し合うことがとても重要だと思います。

来年で結婚40年になります。前の会社も退職しました。今は妻が仕事の時、僕は買い物に行き、洗濯をし、掃除もします。社会全体での変化もありますが、これが我が家での変化です。

社会全体を構成する男女が、基本的に男女とも、相手のことを思いやり、理解しようと努力し、それに感謝し、自分のやりたいことをやりたいときに実現できる。そのような基本的な考えをベースに、社会が変化してきていると思います。

## ゲームさん→含本

こんばんは。日本の状況について教えてくれて、ありがとうございます。ご家族は自分の役割をして、幸せですね。仕事と家事はどっちも大変ですが、家族は男女に関係なく、自分ができることをすれば、いいと思います。私の家族は父も母も働いています。ですので、土日は家族全員で家事をしています。時代が変わるにつれて、だいたい女性の仕事は給料が男性と同じようになりました。今は仕事に成功して、大会社の社長になる女性も目にするが多くなりました。それに子供ができる場合、女性は子供を産むために、休暇を取ることができます。さらに、お金の問題がない家族は男性も子供を育てるのを手伝って、男性も休暇が取れたら、楽になるのかもしれませんが。

さて、どのような女性活動社会になればいいかという、この状況は女性も男性も変わっていきたいと思います。男性も女性も人間ですから、お互いを平等に扱いましょう。それは、家族内で良い態度をとることから始まり、誰が何をすべきかについての社会の考えを変えることです。しかし、女性と男性が安全に何でもできる権利を与える社会になれば、いいと思います。ところで含本さんは今の社会はもうこれでいいと思いますか。今回は仕事の休暇と子供の世話について、交流しました。家族だけじゃなく、社会が女性にやさしく、理解しているか。それともまだ、女性活躍ができないことはありますか。

## 含本→ゲームさん



とても素晴らしい考えを持っていると感じました。女性活躍社会の現状は、まだまだ十分ではないと思います。法律などの制度と教育・啓蒙、意識改革、そして実践だと思います。学校で、もっと定期的にジェンダーに関する教育を行い、ワークショップを進め、男女ともに常に意識をしてジェンダーレスに務めることです。そして、身の回りから実践を少しずつ進め、その実践ができるように周りの環境を整えることも大切だと思います。まだまだ時間がかかるとは思いますが、人口の半分を構成する男女が、平等でジェンダーレス社会の実現が、豊かで暮らしやすい平和な社会を作り出すと思います。

## 貿易大学 レ・グエン・トゥエット・ゴックさん（玉ちゃん）と 奥山寿子さんの交流

### 奥山→玉ちゃん

ベトナムの女性に活躍について、ゴックさんの意見を聞きたいです。女性たちはどのように社会で活躍していますか。ゴックさんのよく知っている女性を紹介してください。

### 玉ちゃん→奥山

ベトナムの現代社会において、女性は妻や母親として家族を守り、皆を支える存在です。「行儀の良い子供たちと成功した主人のいる家族の背後には、常に献身的で愛情深い奥さんがいるものだ。」ともよく耳にしています。もし家族を「社会の細胞」とすれば、社会の一つ一つの細胞を育てる、かけがえのない役割を担当しているようなものだと思います。さらに、女性はあらゆる業界、あらゆる分野に、労働力人口のほぼ半数を占めているのみならず、科学研究や技術革新などに参加する女性の割合は増加しているとみられます。

特に現代女性の鏡として私は特に紹介したい人と言え、ベトナム乳製品株式会社（Vinamilk）のCEOのマイ・キエウ・リエン氏です。Vinamilkはベトナムの厳しいバオカップ時代（\*生活物資の配給時代）の1976年に成立しました。年間約1億9,600万個の牛乳箱を製造していた工場の2つと、まだ建設中の工場の1つを引き継いだ彼女は40年にわたって、Vinamilkを130億ドルの資本価値にした産業界の有名人です。ほかに彼女が言った名言の1つは「女性の立場からみると、女性リーダーは男性に比べて筋力だけは劣っていますが、知識や倫理観、人との接し方…全てが同等だと思います。女性らしさは、耳を傾けて理解しようとするところにあります。それは本能であり、どのように判断しても、常に相手の意見に参考し、その上で回りと同行するのです。」という言葉があります。

### 奥山→玉ちゃん

まさに明言ですね。女性の特徴を言い得ています。ところで、社会で昇進したり活躍することについて男女の差別はありませんか。もし差別があるとすれば、その理由は何だとおもいますか。

### 玉ちゃん→奥山

ベトナムは、過去20年間で最も早く男女の区別を解消できている国の一つだと国際機関から認められていますが完全に解消したわけではありません。よく聞かれるのは「男性は女性よりも立派な政治家やビジネスリーダーである」という固定観念ではないでしょうか。女性がリーダーになると、男性よりも監視されたり、より厳しく期待されたりする傾向があります。

その差別に関して、3つの理由があると思います。まずは、ジェンダーの固定観念と男女の社会的役割は何千年も前から存在しており、伝統文化に染みついてしまっていることで、短期間に変えられないと思われれます。さらに、社会は以前とは大きく変わったにもかかわらず、い

まだに楽に生きていたいから男性に依存するという自主性の足りない考え方を持つ女性がいる一方、変化を望んでいながら世論を恐れている女性もいるようです。最後は政府の男女差別の問題に関する政策はまだ国全体に広がらず、普遍的になっていないという問題がまだ残っているからだと思われます。

## 奥山→玉ちゃん

なるほど、日本もベトナムと同様のことが言えます。家庭での男女の役割について聞きたいのです。あなたのご両親のことを書いてくれてもいいですよ。

## 玉ちゃん→奥山

現在のベトナムではほとんどの家庭は夫婦共働きモデルなので支出についての決定権は比較的同等だと言えます。自分の家族もそうですが母は気が強い人でお金の管理や家族全員のサポートもしっかりできていますので母の威力のほうが強いと感じます。

母の話によると、おじいさんは亭主関白な人だったようです。母はいろいろ制限され、不満なことも多かったことから自主性にこだわるようになりました。それで自分はその考えを受け継いで、将来は自分最優先の方針で、したいと思うままに目標を掲げて、男女に関しての問題を気にせず、全力を出し切って挑むつもりです。

## 奥山→玉ちゃん

お母さんができなかったことを玉ちゃんが実現させていく様子を見て、お母さんはきっと頼もしく思っていることなのでしょうね。日本留学で一段と成長して、自分の目標に向かって突き進んでほしいと思います。



<横浜の山下公園で>

## パジャジャラン大学 ナビーラ ファウジア (ナナ)さんと 矢野恒子 (ティナ)さんの交流

8月1日は初めてのZOOM会話の日でした。

ナナさんは9月23日から1年間名古屋大学への留学が決まったことを報告するつもりだったのですが、私はここぞとばかりに、アジ風事務局から依頼を受けていた5つの質問を、ぶっつけ本番で投げかけてみました。さすが、実力者、何の躊躇もなく話してくれたことが嬉しかったです。

### ナナさんおめでとう

祝



### 名古屋大学留学&N1

合

PIC•COLLAGE

**矢野**：日本では会社の社長とか政治家とか女性のトップはすごく少ないのね。インドネシアではどうですか。

**ナナ**：同じだと思いますよ。私も女性の社長は今まであまり聞いたことないです。同じですね。一人しか聞いたことがありません、私が知る限り。

**矢野**：インドネシアの女性はどのように社会で活躍していますか。ナナさんのよく知っている女性で特に紹介したい人はいますか。

**ナナ**：うーん、いますけど、私の知ってる女性は社長じゃないですね。インドネシアの女性はほとんどボランティアとか人を助ける活動をしている人が多いです。その他にも、女性の方はほとんどが、人の社会を良くするために活動している人が多いですね

**矢野**：お金をもらわないで？お金をもらわなくても生活は大丈夫ってこと？

**ナナ**：私知ってる人はもらってないです。もらわなくても大丈夫だとも思います。

**矢野**：では、社会でプロモート昇進したり活躍することについて、男女の差別はありますか？例えば、日本の場合だと、1つの会社の中で男性は課長、部長って、どんどん昇進していくんですけど、女性はなかなか上に上がっていけない。ちょっと差別がありますね。お給料もまあ私の時代ですけど、女性の方が少ない。

**ナナ**：うーん、多分あの女性の考え方と男性の考え方違うので、その差別があると思います。例えば女性は子供がいる、子供を育てないといけないし、母親の心というか、まあそういう心を持っているので、男性より女性の方がまあ家族に集中するという人たちの方が



多いんですね。男性は家族を守ることは守るんですけど、お金を貯めて家庭を良くしたりすることがとても大事なことだと考える方が多いので、それで給料の差が見られるということもあります。差別というより男女の役割が違うという、これは私の考えではありますが。

**矢野：**それはもう当然ということですよ。わかりました。じゃあ次の質問。

ナナさんの家庭では男女の役割など、ナナさんのご両親のことを例に挙げて、男女の役割がありますか。

**ナナ：**私の父と母はどちらも働いているんですけど、家庭のお金とかはすべて父の役割で母は自分の趣味で働いています。まあそう聞いていますね私は(笑い)。

**矢野：**お父さん、すごく優しい！

**ナナ：**私の母は昔から教授になりたいという夢があったので、まあ今教授になってます。

**矢野：**ああ、すごいな！何の教授ですか 大学で何を研究してるんですか。

**ナナ：**ナナ：心理学かな。家族心理学です。

**矢野：**じゃあ次回は、そのお母さんのことを紹介してくださいね。

では、次の質問。ナナさんの将来の目標を教えてください。

**ナナ：**私の将来の夢は、まあ働きたいことはありますけど、主に家族に集中したいですね。

**矢野：**へえー？

**ナナ：**たぶんインドネシアだからかなと思います。インドネシア人はまだ家族文化が強いので。まあでも働きたいです。どちらもやりたいという夢があります。

**矢野：**お母さんがいいサンプルですよ。ありがとうございました。

8月29日、N1合格の知らせが入る。「今だ！」と2回目のインタビューを開始する。

**矢野：**おめでとうございます。N1の試験は普段使わないような語彙表現がいっぱいで私にも難しいです。すごいですね。

**ナナ：**私もビックリしました。

(1回目のインタビューのおさらいをしている内に、男女差別の話が出てきました)

**ナナ：**差別と言ったら、教育ですね。特に幼少期のころの教育。例えば、家族がいたとします。男の子に良い学校、良い先生を与えて、女の子たちもそこに行きたいのに、まあ、女の子だからという理由でいいところに行かせない、これは差別だと思っています。私は、親に、教育は、たぶんいい方に通っていると思います。

でも、私のひいお祖母ちゃん、お母さんのお祖母ちゃんはその時、男女の差別の考えを持った人です。ひいお祖母ちゃんには何人かの男の子と何人かの女の子がいたんですよ。で、男の子たちにいい教育を与えて、女の子たちにちょっと厳しかったんですよ。でも今見てみると、そのお祖母さんや妹やお姉さんたちは結構生活が豊かになってるんですよ、何故か。で、その男の子たち、お祖母ちゃんの弟とかお兄さんたちは結構ちょっと貧しい(笑)。だから、そう、それを見て。。

**矢野：**本人の能力とか、いい学校に行けなくても、その女性たちは頭が良かったかもしれない、生活の能力も優れてたかもしれない、またはいい人と巡り会ったかもしれない。。

**ナナ：**そうですね。

**矢野：**あの、日本も昔、私のお祖父ちゃんお祖母ちゃんの時代は同じでしたよ。

**ナナ：**そうですね。



矢野：そう、そういうことは同じようにあります。

ナナ：でも、今の時代は、その差別は無いと思っています。

矢野：あぁ、それは良かった！では、次に行きますよ。今日のメインピック、お母さんは社会で活躍している女性の一人だと思いますので、お母さんがどうやって社会で活躍するようになったのか、先ずきっかけ、もうずっとお母さんは教授になりたいと思ってたとのこと、その辺から話してください。

ナナ：私のお母さんもインドネシアの大学を出て、大学にいた時、その夢を持っていたと言っていました。そこで、お父さんと結婚して日本に行き、私たち子どもを育てながら、私が小学校2,3年生ぐらいの時、愛知教育大学の大学院で教育学を学んで、その後、大学院を卒業してインドネシアに帰って私が通ってる学校の中学校で先生をしていました。

矢野：ナナさんが一番上の子どもですか？

ナナ：そうです。

矢野：なるほど。お母さんはナナさんと3歳年下の弟さんを育てながら中学で先生をしていた。

ナナ：そうですね。それから、私は他の中学校に行き、私が他の学校に行ってる間に教授になる試験を受けて。今は大学で教授をしています。

矢野：家族心理学を易しく説明してもらってもいい？

ナナ：ちょっと待ってください。聞いてきます。(と言って、席を外す)

#### ナナちゃんのお母さん(フィフィ)登場で～す！



家族心理学 (Family Psychology) は、家族や家庭の中で起こる心理的なプロセスや人間関係に焦点を当てた心理学の分野です。この分野では家族メンバー間の相互作用や、親子関係、夫婦関係、兄弟姉妹の関係などがどのように人々の心理や行動に影響を与えるかを研究します。フィフィさんは特に女性の役割に焦点を当てた研究を専攻されているそうです。

矢野：家庭を持って子どもや旦那さんとうまくやって、そして自分の本当にやりたい仕事をしている女性はそんなに多くないと想像するんですけど。

矢野：でも、お母さんのお父さんが早く亡くなってしまったので、子どものころは苦労していたと言っていました。

矢野：そして、いいご主人と結婚されて良かったですね。ナナさんのお父さん、すごく理解があると思うんですけど。協力してくれたんですよ、お母さんの勉強とか。

ナナ：そうそう、特に日本に住んでいた時は、知らない人や知らない言葉があったりしたので頑張ってたんだと思います。

矢野：同じ女性として、ナナさんが目標としての働くことと家庭を大切にすることとの両方をお母さんは持ってらっしゃるので、いい目標ですね。

ナナ：そうですね。目標にしていきたいです。

## 架け橋グループ（清華大学大学院） 金 佑真さんと西尾のぞみさんの交流

### 西尾→金佑真

日本では女性の社会での活躍が期待されていますが、私は現状ではなかなか難しいのではないかなと感じています。特に子育てをしている女性については、育児のために仕事をセーブしている方が多いんじゃないかなと感じます。私自身、今5歳の子供がいますが、幼稚園の行事に行くと参加しているのはほとんどがお母さんです。中国ではいかがですか？

### 金佑真→西尾

実は私も女性の問題にずっと関心を持っていました。私も現状では、大勢の女性が社会で活躍することは難しいと思います。少しずつ発展してきた現代社会、男女平等を促進してはいるが、まだまだ全然達成していないままです。男性だけでなく、女性でさえ自分の境遇をよく知らず、男女平等の社会はとっくに達成したと思う人は結構います。したがって、このような人々の意識を変える必要があると思っています。



一つ簡単な事例を見ると、「育児」は今でも全て女性の役目とするのが当たり前だと思う人が多いです。「育児」には妊娠、生育、生育後の回復、子供が小さいころの養育など様々な「任務」があります。それらの役目を果たすため、女性は自分の仕事と時間を犠牲にするしかありません。しかし、中国でも女性のこの犠牲は、長い間当たり前と思われ、特に男性からは、このような「仕事」は全く「仕事」とはいえないと思い、女性の家庭内での苦労を無視してきました。もちろん近年はこのような状況は若者の間でどんどん少なくなってきましたが、それはまだまだ男女平等にはなっていません。

男尊女卑の思想が断絶してない今、男性はあまりにも「王様」みたいに当たり前女性に提供する無料サービスを受用してきました。これが婚姻制度で男性に与えられた保護ではないでしょうか？このような状況を改善するには女性自身に頼るしかありません。女性が自分の境遇をよく理解し、男性に頼らず、女性たちの力でこの不合理な性別関係に向き合うべきでしょう。

### 西尾→金佑真

中国も同じような感じなのですね。日本でも若い夫婦の間では、家事や育児は夫婦で協力するという形に変わってきていますが、それでも男性側の家事や育児を「手伝う」という意識が根強く残っていて、当事者意識が欠けているように感じます。

「女性の社会での活躍」については、女性自身が何かの組織で上を目指す事をそこまで望んでいるのだろうかと感じるところがあります。若い女性は上を目指す事よりも、どうしても「結婚」に重点を置いている方が多いと思いますし、結婚を選択しない場合でも、何かの組織などで上を目指すというよりも、仕事をしながら趣



味を充実させる、もしくは組織に縛られないフリーランスで働くなど、そういった生き方をしている方が多いように感じます。

「女性の社会での活躍＝組織のトップになること」という視点から離れて、多様な生き方をして社会で活躍している女性は多いように感じます。そういった生き方をされている場合は、家事育児と両立されている方も多いです。

## 金佑真→西尾

そうですね、実は私も日本に来てから日本の若い女性は結婚することをとても大事にしているなぁと感じました。つい先日、東大で交換留学をしていた一人の女性の先輩と話をしました。彼女は日本にきて「日本の若い女性は上に向かって精一杯働くよりも、恋人を作り、結婚することをもっと大事にしている傾向がある」と聞きました。これは中国と違う所だと思います。

今の中国の若い女性たち（学歴が大学かそれ以上の女性）は、結婚よりも、自分の仕事に集中する傾向が見えます。したがって結婚や恋愛などに入れ込む人がどんどん少なくなり、男性たちは結構困っているみたいです。

ところで、のぞみちゃんは「逆差別」という概念はご存知ですか？男女問題における逆差別は、現在の社会は女性を守りすぎて、逆に男性が差別視されていると思うことです。このような考えを持つ男性はどうやら韓国でとても多いらしいです。韓国では18歳から35歳までの男性が強制的に徴兵により入営する義務がある徴兵制度があります。韓国の男性たちはこれを自分たちに対しての「逆差別」だと思い、女性たちを恨んでいる人が少なくないです。

しかし、彼らは一体誰がこのような徴兵制度を決めたかを考えもせず、女性だけを恨んできました。このような徴兵制度を決めたのは他の誰でもなく、男性です。男性は女性が弱小だと勝手に決めつけ、女性を「保護」という「仮面」をかぶって女性たちを差別視してきました。したがって、今の男性たちが逆差別と感じたのも、全て自分たちがまず女性を差別視した報いであるということです。

もちろんこのような論理は韓国だけでなく、世界中に適用するかと思います。男性が女性を差別視してきたから、女性を弱小であると決めつけ、女性には先天的にできないものがたくさんあると思ってきました。それならこの社会の安定のために、男性たちがもっと多い仕事を背負わないといけません、何しろ女性は「弱小」で「頼れない」のですから。なのに、今になって、女性たちは社会によって守られすぎだと、彼女たちを責めるのは意地悪ではないでしょうか？

このように弱小だと思われた女性たちは、自分たちの力ではどうせ何もできないということを知って、出世することを諦め、家庭に着目し、恋愛に着目し、男性に頼ることにしてきました。男性に頼るため、彼らの好みに合わせないといけません。それがまた女性たちが自分の見た目、顔やスタイル、服装や化粧にこだわるよう迫ってきました。女性たちは一生懸命自分を綺麗にして、弱くて優しい女性になるよう自分を「鍛えて」きました。このような「鍛え」は小さい頃から、親や学校の先生、全社会から受けてきました。人々はこの可笑しい「鍛え」に対してあまりにも当たり前みたいに思っていたため、それに逆らおうとする人が少なかったのです。しかし今日に至って、女性意識が目覚めた女性たちがどんどん増えてきました。自分がこの世界で受け入れた不公平を当然だと思わず、男性たちが頼れないものだと意識し、自分に頼ることにする人もどんどん増えてきました。特に中国ではこのような女性がとても多いです。

私の周りでは、結婚なんて一生したくないと思う女性は多いですが、男性はほぼいないです。なぜなら彼らには結婚して、自分がどれほど得するのかよく知っているからです。日本の女性

私たちはなぜ結婚にそんなにこだわるのかは自分にもよくわかりませんが、このような考えを持つ人はどんどん減っていくことは信じています。男性や婚姻などに頼らず、自分だけを頼って、自分の欲しい生活を作るのがこれからの動向になるのでしょうか！

## 西尾→金佑真

そうなんです！日本の若い女性は仕事で上を目指すより、恋愛や結婚を重視する傾向があります。実は私も独身の間はそうでした。今では若い時に勉強や海外留学など色々な経験をして、しっかりした仕事を目指していたら良かったととても後悔しています。

中国の学歴の高い若い女性は自立した考えの方が多いのですね。確かに結婚して女性ばかりが家事や育児に追われる生活は、女性の負担が大きすぎますよね…。子供の世話はともかく、大人である夫の世話までどうして妻がしないといけなのだろうって疑問に思います。

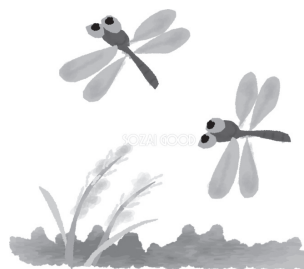
「逆差別」という言葉は初めて知りましたが、日本でも似たような現象はありました。韓国で「逆差別」という考え方がひろがっているのですか。韓国の男性も結婚して家庭に入ると女性に家事育児を任せるイメージがあります・・・

日本の「逆差別」のような出来事ですが、ゆうちゃんは日本の電車の女性専用車両や映画館のレディースデーはご存知ですか？女性専用車両は女性を痴漢から守るため、レディースデーは男性より給料の低い女性へのサービスデーということで作られているのですが、一部の男性が女性ばかり優遇されてずるいって言っているんですよ。先日のメールで言っていたように、こういう事が行われているのって、結局は男性側や社会制度が原因だったりするのに、女性が悪いみたいに言われているところがあるので、それってどうなの？ってすごく疑問に感じます。

## 金佑真→西尾

韓国だけでなく、やっぱり日本にもあるんですよ。いや、多分東アジアだけでなく、全世界的に存在するのではないのでしょうか？女性専用車は知っていますが、レディースデーは初耳でした。なぜ電車で男性専用車をつくらず、女性専用車を作るのでしょうか？なぜレディースデーはあるのに、メンズデーはないのでしょうか？

この間、韓国の一の男性学者の講座をネットで観ました。彼によると、このような逆差別を感じるのには主に若い男性だと言いました。それは、若い男性は社会人になったばかりで、自分たちの収入は自分と同年の女性とあまり変わらないから、逆に自分が差別視されたと思っているらしいです。つまり、経済的実力のない男性、主に若い男性しか逆差別を感じないのです。





## 日本で仕事をしている OG たちの本音

2024年8月24日

司会 上 高子

参加者 王 鶴 シワポーン・テッパラット

レー・ゴック・トウイ ナディア シャフィラ スブラブ

上：今日はズームインありがとうございます。多様性を重んじて、各交流校の出身者に入ってもらいましたが、母国を代表することは意識せずに、個人的意見の自由な発言をお願いします。まず自己紹介から入りましょう。最初は交流開始1番の清華大出身の王鶴さんから。



王鶴：こんばんは。王鶴といいます。私はアジアの新しい風の活動に初めて参加したのは2013年、今までもう11年ぐらいいなります。人生の3分の1ぐらいいの長い期間になります。今は証券会社で働いています。この会社に入ったのは去年の8月ぐらいいでその前の5年間は損保会社で働いていました。両社とも社債の運用をやってきました。会社が株式や債券を発行したりすることでマーケットから資金を調達し、生産などに投資することで収益を得るという流れなんですけども、私の仕事は債券を発行する会社がこの負債をちゃんと返済できるかどうかを分析することです。なので、投資家にはこの債券を買うときに、例えば5年間の債権だとしたら5年後にこの自分のお金をちゃんと取り戻せるか、そういうアドバイスをすることです。私生活では週末はあんまりまともな趣味がなくていつも家でゴロゴロしてドラマを見たり、おいしいものを食べたりしています。あとダンスもやってるんですけど、やはりドラマの方が好きです。



上：王さんは、第二回アジ風奨学生でした。それじゃあ次、2番はタイのタマサート大学のシワポーンさん、お願いします。

シワポーン：はい皆さんこんばんは。本名はシワポーンですけど、ジウというニックネームで呼ばれています。アジ風に出会ってから、そうですね、私もはっきり何年かは覚えていないんですけども、10年以上になったかなって思います。大学2年か3年生だったので、大変お世話になっております。今は、子供服ブランドの日本企業で勤めてはいるんですけど、本社でグローバル事業部っていう部署に配属されていて、主に海外にある店舗の運営をさせていただいております。担当しているエリアは、タイ、シンガポール、インドネシア、韓国とアメリカなんですけれども、主な仕事は店舗管理というか運営っていうか、ブランド管理っていう、いろんな仕事です。営業っていう部分もあったりして結構毎日忙しい日々を過ごしております。またそうですね、特に今週末は新作発表会に向けていろいろ準備で毎日残業しています。そして今年の3月から新しい舞台、グローバル事業部でお仕事をしながら、店舗設計っていう部署に配属されていて、店舗設計の中ではデザイナーとして活躍しています。

上： ありがとうございます。すごいですね、国際的な仕事をしてらっしゃるんですね。それでは3番目にトゥイさん、貿易大学出身ですね。

トゥイ： 皆さんこんにちは。初めての人もいると思いますけども、私はトゥイと申します。ベトナムから来ましたハノイ貿易大学卒業生です。私がIメイトに参加したのは、多分もう10年前ぐらいだと思います。元々は皆さんと同じ学生として参加していて、大学を卒業してから日本に来て、まず仕事に就きましたので、それからはアジ風の正会員として参加しています。大体5年間ぐらいは日本で仕事をしているんですけども、今年の始めぐらいに、ちょっと仕事を辞めて大学院に入りました。現在は早稲田大学大学院で修士1年生です。今年の10月から私もアジ風の奨学生になりますので、みなさんよろしく願います。

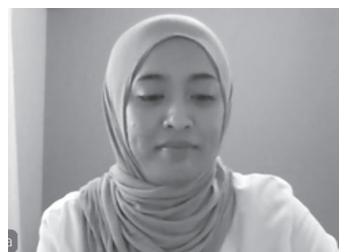


上： トゥイさん、今は学生会員ですが、5年間仕事をしてらした経験から入ってもらっているんですけど、以前の会社はどのような会社で何をしてたんですか。

トゥイ： 前の会社は結構大きなメーカーなんですけども、私の仕事はですね、営業部か海外課という部門で働いていてシワポーンさんと同じ、海外事業の方面を目指して新規顧客開拓とか、セールサポートという仕事です。

上： それでは最後になりましたが、パジャジャラン大出身のナディアさん。お願いします。

ナディア： ナディアと申します。インドネシア出身ですが現在は日本の愛知県に住んでいます。仕事なんですけど在宅で、アメリカのIT企業でカスタマーリレーションズを担当しており、日本のお客様を含めて世界中のお客様のアカウントを管理したり、当社とお客様のいい関係や協力体制を築くためのコミュニケーションを行っています。この仕事を始めたのは日本に引っ越してからの2か月前で、これからもより多くプロジェクトに参加したいと思います。アジ風の活動なんですけど、初めて参加したのは7、8年前位、私もしっかり覚えてないんですけど。



上： パジャジャラン大学との交流開始は8年前ですね。ナディアさんは最近日本人の男性と結婚なさってインドネシアから日本へ移られたばかりなんですね。

### <質問①あなたは男に生まれた方が良かった？それとも女で良かった？>

どうですか？誰でもいいから手挙げてください。すぐ答えられる人。女で良かったと思う人、手を挙げて。(3人すぐ手が上がる。シワポーンさんは半分手を挙げて、「わからないです、半々ぐらい」とのこと)。



上： 男の方が良かったと思う人いないの？

シワポーン： 私は仕事の場面とかは男でも女の子でも同じ人間だからどちらでもいいかなっていうふうに思っていて、そうですね、どちらでもいい。

上： はい、では「男の方が良かった」と思う人は1人もいないわけね。

シワポーン： 男で生まれたらこんなことができるんじゃないかなっていうことを考えたりはしたこともあります。

上： だからあなたは半々っていうことね。やっぱり女より男の方がいいという人はこの中には誰もいない、っていうことでよろしいですね。はい、わかりました。実は私、この質問を夫にしたんですよ。「あなた男に生まれて良かった？女の方が良かったか」。すると「男」って即答でした。だいたい日本の男性はみんなそう言うと思いますよ。女の方がよかったという人は、あんまりいないと思いますね。私も実は、女で良かったと今も思ってる方なんです。なぜかっていうと、女の方が激しい競争の世界にさらされない。子供や家事の体験は非常に全人的な、っていうか総合的な人生経験ができて、精神的に豊かな生活がエンジョイできると思っているわけです。



## <質問② 男女の違いとキャリア上での棲み分け>

では次の質問についてご意見を伺います。ジェンダー平等とはいっても両性には違いがありますよね。この辺についてどう考えますか。男と女が仕事の上でも同じで平等だと言い切れないところが実際あると思うんですけども、何かこのことについて意見がある人はいますか？皆さん子持ちの人は誰もいませんよね。2人は独身で、結婚している人が2人だけど子持ちの人はいない。みなさん、育児の体験はないんですけども、どうですか仕事の上で、これは男と女って、平等、同じには扱えないなって思うことはありますか。トウイさんどう？

トウイ： そうですね。私から見ると平等はしっかりあるとは言えないけれども、今知っている限りはそんなに大きな差異はないと思います。なんか私と周りの友達の話の話を聞いている限りあんまりないと思いますけど。正直に言って今私が取り組んでる修士論文のテーマは、「職場のジェンダーギャップが外国人労働者の日本定住志向に影響を与えるかどうか」という研究をしていますよ。だから今日のテーマは本当に私の修士論文のテーマに近いので、みんなの意見もちょっと聞きたいので、参加させていただきました。学術的な背景から見ると、日本では男女格差は結構大きな課題となっているとわかっています。実は去年、インディード株式会社、結構大きなデータ調査の会社ですが、日本人労働者 5200 人ぐらいを対象として職場のジェンダーギャップについてアンケートを調査しました。その調査結果では、70%ぐらい、職場でジェンダーギャップを感じたと答えましたよ。ですけど、とりあえずは研究の初めの段階ですので、ちょっと知り合いのベトナム人に聞いてみたら、みんな職場でジェンダーギャップはほとんどない、と答えました。本当に困りますよ。日本の研究からはいっぱいある、とのデータ結果が

あるんですけども、実際ベトナム人友達に聞いてみると、みんなあんまりない、と言うから本当に困ってます。ですから、今インタビュー対象者を探している段階です。多分みんな私の友達は、王さんと同じ清華大学卒のような、めっちゃ優秀な人で、私も同じで、大学を卒業した友達も結構優秀な人なので、優秀な人だったらみんなのどこでもよい仕事できるし、本当に能力がある人だからあんまりないのかなと思いますけども、そうですね、あんまりギャップを感じないっていう人が多いわけね。

上： インディードのデータでは70%って出てるけれども、っていうことですか。

トウイ： はい、でもデータは対象者は日本人です。日本はそうでも今回は外国人、特にベトナム人労働者を中心に注目したいので、とりあえずベトナム人の友達だけに聞きましたけども、「ない」という答えが結構多いです。でも私、会社ではね、会社の環境によって違うかもしれないですけども、私の前の会社はメーカーなので工場があって、工場環境は男の人が多いというイメージですので、だからそんなに女性に優しくない環境かなと思って、確かに女性社員もあんまり多くない、いるのはいるけど屋内です。多分30%ぐらいが女性社員で、残りの70%ぐらいは男の人。一番長い期間働いている人は2人しかいないです。1人は男の人、大体35年間ぐらい働いていて、今もまだ働いています。その男性は今もう取締役になりました。でももう1人は女性ですけども、係長です。女性のポジションっていうのは、一番高いのは係長ですよ。それ以上のポストの人は誰もいないです。

上： 昇格のところでだいぶ違ってくるわけですよ。私はどうも不思議なんですけども、外国人の女性に対してはあんまり日本男性はそう感じさせないのかなって、日本人と違うのはどうしてなんだろうって、ちょっと思いましたね。トウイさん、これからもずっと続けてこのテーマを追ってくださいね。他の方はどうですか。同じ質問ですけども、職場の中でジェンダーギャップがあるということについてどう思いますか。シワポーンさん、どうぞ。

シワポーン： そうですね、まずタイの社会と比べたら、私タイで働いたことないので何とも言えないんですけども、一般的に見るとタイの方は女性の職員とか、ちょっとハイポジションになっている女性の方が多いかな、っていうふうには感じておまして、例えば日本では、クライアントに会う時はまず職員は女性、あと高い役職の方に会ったら、必ず男性って、いう印象がすごく強いです。見る限りでは10人だったら多分女性は1人もいないぐらい、そういう割合かなっていうふうに感じておまして、それがなぜかなって言いますと、やっぱり女性は、これは日本人の考えっていうか、あんまり言いたくはないんですけども、結婚したら子供を産むんだらうね、育休とかをとってなかなかその仕事を続けてもらえない、っていうことがあって、大きなチャレンジとか大きな課題とかをあまり与えられない、っていう環境になっているのかな、というふうには感じております。たまたま私が勤めている会社は90%が女性なので、しかも扱っている商品が子供服なので店頭のスタッフももちろん女性の方が多いっていうのもあるんですけども、店長も女性ですし、女性の活躍は結構重視してる会社なのかなって、いうふうには思っています。ただ本社ビルとやっぱりそういう役職とかは男性の割合がまだ高いのかな、と感じております。でも会社の方でも今、ジェンダーギャップについても重視していて、改善していこうっていう方向性も持っていると感じております。

上： そうですか。それはいいですね。ところであなたの母国タイはすごいですね、今度首相はまた若い女性になった？

シワポーン： あまり評判はよくない人ですよ（笑い）。

上： よくないですか。でもやっぱり、女性がすごく活躍してるっていう印象はありますよね。ありがとうございました。それでは他の方はどうですか。王さんとかナディアさん、ジェンダーギャップについてし、会社の中で見ていて感じますか。ナディアさんはちょっと難しいね。実際にリアルで働いてないの？オンラインだけですか？

ナディア： そうですね、インドネシアでは日本の企業で働いたことありますが、でも多分実際に日本にある日本企業とは違うんじゃないかなと思うんですけどね。日本では、女性が子どもを持つと仕事を辞めることが一般的であったり、結婚前に退職することもあって、その結果として職場で不利になることが多かったと聞いています。最近では「共働き」が日本社会でもかなり一般的になってきたと聞いていますが、インドネシアでは、共働きは以前から一般的でした。私の友人のお母さんたちのほとんどが働いています。それは、インドネシアでは子守りや家事スタッフなどの手助けを得ることが日本に比べて簡単にでき、費用もあまりかからないからだと思います。それで、母親たちも仕事に集中できるのです。

現在はアメリカのIT企業で働いていますが、おっしゃる通り、業績が重視される環境です。性別に関係なく、仕事の成果を上げれば誰でも責任ある立場に就くことができます。男性でも女性でも同じ仕事をやっているし、実際私の働いている部署でもディレクターは女性です。

上： それは、でもアメリカの会社っていうこともあるかもしれないですね。その辺ね、日本の企業とちょっと違うかもしれないですね。確かに。

ナディア： 一方でそのマネージャーの方は男性の方が目立ちます。私の直属の上司は男性の課長ですが、取締役は女性です。私たちの職場では業績による評価がしっかりと行われていることを示していると思います。

上： わかりました。性別にかかわらず、実力主義が通じるわけですね。王さんどうですか。あなたの会社は。

王： 前の会社も今の会社も女性が少ない方です。例えば1つ目の会社は、私のチームでは10人ぐらいいたんですけど、その中には2つの職種がわかれていました。1つは「地域」という職種で、これは必ず東京支店とか本社とかで働くことを約束された職種です。そのかわり、給料がちょっと低めで、昇進の可能性は低い。なんですけども、もう1つの職種は「全域」といって、これは東京じゃなくて、例えば大阪とか北海道とかに異動させられる可能性がありますし、海外に赴任するチャンスもあるんですけど、その場合には、断ることはできない、会社に言われたら必ず行く。その対価としては、メリットとして、給料は地域よりは高い、あと昇進のペースも速い。それはこの会社に応募したときは、自分から選べるんですけど、実はそんなに自由に選べないんです。なぜかという、「地域」は女性ばかりです。私、最初は女性だけが地域社員になりたいと思ってるかな、って思ったんですけど、そうじゃなくて男性にも

実は「地域」に応募した人がいるらしいです。でもその男性は全員が会社に断られ、「全域」にされたらしいです。

上： そうなんですか、そこで男性と女性で分けられているところがあるわけね。全域か、あるいは地域か、っていうことでね、それでは王さんは地域ですね。

王： いいえ、私は全域ですが、ずっと東京にいられるっていう枠があります。全域の中にもずっと東京で働ける、そういう特別な枠もあるので、その中にいました。

上： 例えば王さんね、中国に転勤、とか言われたらどうしますか。

王： 会社に約束してもらったので、まず中国に行くことはないですね。前の会社だと、中国に行くのは不可能でしたが、今の会社は可能です。前の会社の考え方としては、中国人は中国に行かせたら、他の現地の会社に取りられちゃうリスクがあるのでそういうリスクを避けたいわけですね。

上： 会社としてはやっぱりいろいろ工夫してるわけですよね。そうですね。なんていうか、どうやって女性をうまく使いこなそうかと思ってね。

王： 前の会社の話にもどりますと、男性は「地域」として入社できないので、激しい競争にさらされます。生活を選択できない状況、最初から諦めなきゃいけないんですよね、男性はね。今の会社は前の会社と違いまして、そういう区別がないんです。男性も女性も全員「全域」なんですけど、別の枠としてアシスタントっていう枠がありまして、アシスタントは正社員じゃなくて非正規とか派遣で、大体事務の手続きを手伝ってもらう感じの社員です。その方々は全員女性です。なので本質的にはあまり変わらないかもしれないですね。

上： わかりました。ちょっと最近読んだ本にその辺のことが書いてあったんですが、日本の場合はやはり性別によっていろいろ待遇を変えてるっていうね、そういうところがあるようですね、個人じゃなくてね。はい、わかりましたどうもありがとうございました。何か付け加えることないですか。もしなかったら次に行きます。

### <質問③ アジアの女性の地位について>

次はアジアの女性の地位について伺いますね。画面共有をしていただけますでしょうか？

#### ジェンダーギャップ 世界経済フォーラム

	2021年		2024年
タイ	79位	⇨	65位
ベトナム	87位	⇨	72位
インドネシア	101位	⇨	100位
中国	107位	⇨	106位
日本	120位	⇨	118位



これアジア風の別冊に、ジェンダーギャップのことを取り上げ始めた2021年はこういう順番だったんですね。3年後の今年最新のデータを見ますと、私たち5か国全部順位が上がっているのですよ。次第に良くなるという傾向が見られて、うれしいですね。ただ、タイとベトナムはかなり良くなっていますが、それでも欧米に比べるとアジア全体の女性の地位はかなり低い。特に日本はこの中でも一番順位が低いのです。このデータはね、政治、経済、教育、健康（医療）の四つの点に基づいてだけ取られているので、この結果に異論はあると思います。それで日本の女性は幸せがたくさんあるっていうふうに言う人もいっぱいいますが、とりあえずこれで比較してみましょう。これを見て、皆さんはなぜアジアの女性の地位が低いのか考えてみてくださいませんか？なぜ、アジアは低いのでしょうか？誰かちょっと意見のある人手を挙げて。

トウイ； とりあえず私はアジアの文化は、国によって全く同じ文化ではないですけども、でも何かと同じ共通点があるんです。だからとりあえずはアジアの共通の文化によるかなと思います。

上； 文化のせい、共通点は文化。どういう文化ですか。私、ちょっとこれ自分が言ってしまうてよくないかもしれませんが、儒教の影響を受けてるんじゃないかと思うんですよ。儒教わかりますか。英語で言うと、confucianism ですね。いわゆるヒエラルキーが決まっているわけですよ。男と女では男の方が上だし、年寄りの方が偉いし、ていう2000年以上前に作られたヒエラルキーがまだ残ってるんじゃないか、と私は思ってるんですけど、どうですか。王鶴さん、中国は儒教発祥の地ですが、75年前の革命で意識変革をしたはずですよ。

王； 多分ランキングのトップはヨーロッパの国ばかりかと思うんですけど、それは工業革命による何か原因、何かの理由が大きいかなと思ひまして。それまでの社会では男性は体格が大きくて力も強いので、生産には男性の方が女性よりは明らかに強かったんですけど、最初は工業革命によってマシンを使うようになったことかな。はい。いわゆる体力だけでなく、メンタルな面でも生産に寄与するようになったから、男女のギャップがそんな風に大きく縮まってきたんですね。ヨーロッパ全体に影響して、世界の他の地域よりは先なので、そのギャップが先に縮まってしまうてきたから、男女の差別の縮小もヨーロッパは他の地域よりは先に進んできたのかなと思ひました。

上； わかりました。それは産業革命ですね、多分イギリスで起きた産業革命の方ですけど、それより前のフランス革命もすごく女性が中心に「平等」を求めて起きたことがありましたよね。その影響があるかもしれませんが。その場合アジアはそういう革命は起きなかった。でも中国はね、75年前の革命はね、「もう男女同じです」って言ったけど、なかなかそこまでやっぱりいいかないところがあるみたいなんですよ。

王； やっぱり広いのも一つのネックかなと思います。大都市の北京とか上海とかはあんまり男女のギャップはそんなに見えないと思うんですけど、やはり内陸の都市、例えば私の実家みたいな（河北省）小さな土地と貧しいところはいっぱいあるから、そのところでは女性は教育を受けるチャンスは男性より少ないので、その教育をベースにした後の就職とか昇進とかも全部繋がっていくわけだから、どんどんそのギャップが内陸の都市や農村で拡大しているわけですよ。

上：なるほど、大都市と農村との格差がすごく大きいから、しかもその領土が広いからね。なかなかそこまでみんながギャップをなくすのは難しいってことです。他の方はどうですか。ナディアさんとかシワポーンさん、アジアの女性の地位はなぜ低いのかっていうのを考えたことありますか？西洋に比べて。

ナディア：女性が多分仕事の中でもうちちょっといろんなタイプがあると感じていて、例えばイメージとして、フリーの仕事や秘書の仕事をすることが多い。一方では男性がちょっと強さが必要な仕事をしたり・・・

上：つまり今おっしゃったのは、女性はやはりその家事とか子育てとかそういうことが大きいし、仕事の内容に適性があるということですか。

ナディア：はい。私はイメージとして女性の方はちょっと柔らかいというイメージがあるので、事務的な仕事や日常的な仕事が多いと思っていて、男性は力づよい、またリーダーになることが多いと思っています。

上：すみません、この質問してもいいですか。インドネシアではイスラムの影響で、いわゆる女性と男性の違いっていうか宗教上の制約とか影響とかそういうのはあんまりないんですか。

ナディア：多分、実際はあると思いますが、でも多分私の経験と、ほかの人の経験はちょっと異なっているということもあると思いますが、なんて言うんですかね、仕事とか教育では、これは私が、個人的な仕事や教育において、男性に対して、そうですね、例えば失敗したこともありませんし、最終的に真の能力が出るものだと思っていますので、その力があるので、能力が増えて最終的にはその例えば能力的に良い方がいろいろメリットがあると思っています。あんまりそういうギャップは個人的には感じていません。

上：そうなんですか。私が聞いた話では、インドネシアでは宗教的な影響があるんじゃないか、というのですが、あなた個人はあんまりそういうことは感じていないということですね。はいありがとうございました。それではシワポーンさん、どうですかね。

シワポーン：そうですね私、この件に関しては考えたことがないんですけども、でも言われたらなんか、タイは今ほぼ多分、だいぶ前から共働き社会だったので、出産しても仕事を続けるっていう女性が多いと思うんです。一方日本はやっぱり男性は外の仕事、子育てとか家事とかそういう家庭の事は、女性の仕事っていう思考がまだ強いのかなっていうふうに思っています。なので普段の生活の中からそういう考え方の影響を受けて、そういうふうになっているんじゃないかなと思っています。特に日本はまだ、入社してから何年という、別の要素で評価され、能力が高くても、その上下関係も強いだろう、あなたがすごい人でもまだあまり役割が与えられないっていうのもあって、出産で仕事が中断するので昇進することがちょっと難しくなっているんじゃないかなっていうふうには思っています。一方、ジェンダーギャップのあの数字ですが、お仕事でヨーロッパやUSAと関わっていることはありますが、やっぱりあまり詳しい事情はわかりません。それでも、ヨーロッパとか欧米の世界ではやっぱり能力



重視で人を評価している、強い印象がありますね。

上： はい、よくわかりました。どうぞもっと何かありますか。

シワポーン： 例えば今育休を男性でも受けるようになっていないですか。でもそれをちょっとなかなか取ってくれるっていう男性がいないですね。結局日本は変わろう、変わろうとしていると思うんですけども、でもやっぱりそういう何だろう、性差の考え方が根強く残っておりますね。

上： つまり、人事評価では、本人の能力とかそういうことよりも、年功序列とか、長く務めるのがいい、男か女かと性別で評価されるっていう社会であることはよくわかります。皆さんの意見を聞いたので最後のクエスチョンです。

#### <質問④ 職場の日本女性を観て、どんな感想や意見がありますか？>

シワポーン： 多分女性が多い会社なので、特に女性が働きやすい環境を作ろうっていう方向性を持っている会社っていうこともあって、他の職場はどうなってるかわからないんですけども、私の会社は、出産して戻ってこられるような環境を今作っていて、女性でもいろんなことをチャレンジできるような職場になっていて、またそういうふう感じて、変えてるな、という風には実感しております。はい、そうですね、それも女性はまだ子育て、育休に関わっているっていうことなんですけれども、戻ってきてまだ子どもがちっちゃい頃あるじゃないですか、突然保育園とかで、熱を測っていて、ちょっと上がりましたみたいな、早く迎えに行かなければならないっていう避けられない状況が結構多いんですけども、それを理解し合って、いいよ、と言ってくださいっていうことなんだろう。わかり合えるような感じの職場がこれから増えていけばいいなっていうふうには思っております。

上： なるほどねシワポーンさんの会社は女性が多い。多分70%ぐらいとおっしゃったかしらもっと多いかな？

シワポーン： そうですね。正確に何割かわからないですけど、とにかく女性がメインです。もう80%ぐらいと言えます。

上： だから女性はお互いに助け合っていかなきゃいけないし、事情もよくわかるから、そういう変革がしやすい会社なんですね。シワポーンさんはずっとまだこの会社に勤めるつもりですか？

シワポーン： あの環境を考えたらとてもいい会社で、いたいと思っていて、今はここで勤めたいですけど、やっぱり将来的に新しいことをチャレンジしたい。そういうことはまだあんまりわからないです。

上： なるほどね。別にどんなところでも対応できるだけの能力があるから、みんなすごいね。日本語上手になりましたね。最初の頃から比べると格段にレベルが高くなってびっくりしちゃ

いました。それではどうですか、職場の日本女性を觀た感想や意見をもう少し話してください。

トウイ： 私からちょっと。私の前の会社はシワポーンさんの会社と全然違って、男の人が多い環境だったんですけども、なんていうかな、女性にとっては仕事をするのはそんなに難しくはないんですけども、その会社でただ昇進して、管理職になることは結構難しく、なぜかっていうと、一つ目は確かに多分個人の希望、自分が課長とか部長とかになりたくないということもあるようなんです。もう一つは、会社のルール、例えば卒業してから入社して、みんな同じ3級レベルになって、4級になりたい場合は、少なくとも3年間働いて、昇級の試験を受けていれは順番に昇級することができるんですけども。例えば課長・課長になるのは何歳とか、例えば40歳までに課長の試験に合格しないと、もうチャンスがなくなります。皆、入社して何年間か仕事して、多分4級とかになってから結婚して子供とか産む、1人とか2人の子供ができたなら、一旦しばらく休むんじゃないですか、2年間とか3年間とか、それだったらみんな戻ったときは、年齢は結構ちょっと高くなりますので、だからもう試験を受ける資格はなくなるっていう感じです。だからなかなか女性が管理職の人になれない、などという理由もあるんですけど。

上： なるほどね。制度そのものが女性にとっては不利になってるっていうか、子育てとかね、きっと介護とかも、そういう男の人にないような結局負担とかそういうのがあるから、どうしても男性優位な制度になっちゃうっていうことでしょうかね。

シワポーン： 昇進に関して確かに個人的な経験があるっていうか、ちょうどどこがドイツの会社で働いていて、はい。入社3年目でもマネージャーになったんですよ。マネージャーは日本は多分20年働かないとなれない、そういうのが確かに感じておりまして、私10年間頑張ってもあの部長にいけるかな、っていうそういう感じはみんな持っていると思うんですね。

上： すごいですね。ドイツのその方はとても能力のある方だったんでしょうね。王さん、日本の女性を見て何か感想を持ちますか。

王： 二つ気になったところがあって、一つは周りに能力や知恵をいっぱい持っているのに、あんまり昇進したくない女性は何人かいますね。私の目から見ると全然私と同じ給料とか私よりレベルの高い給料をもらえると思える方なのに、全然上に行く気はない。そういう女の子は何人かいます私の同期の中に。

上： この種の話はよく聞きます。有能な女性が管理職になりたがらない、その理由は「出世したっていいことなんて何もない」と思う人が多いからだと思います。

王： もう一つ、ただ、少ない管理職の女性の方たちには一つの共通点があります。それは気が強いことです。優しい女性の上司がいなくてね。管理職の女性全員が気が強いから、それは男性と競争するために、そういうキャラじゃないと駄目なのか、と。

上： 男の人と競争して共存していくためには気が強くないと駄目だ、というふうに思うわけね。

王： そうですね。なんか管理職の選抜基準はわかんないですけど、なぜそういう性格、元々そういう性格なのかそれともマネージャーになるために部下を管理するためにそういうキャラじゃないと駄目なのかどちらかわかんないんですけど、なんか横から見る感じではちょっと大変だな、と思ってしまう。

上： なるほどね。わかりました。皆さん正直にいろいろお話してくださって、とても嬉しかったです。ちょっと一つだけ私、この間から感じていることがあります、皆さんに聞いてほしいのですが、「伸びしろ」って聞いたことがありますか。

ナディア： 多分ないです。

トウイ： ちょっと聞いたことがある気がしますけども、

上： これね、アジアの女性はすごい伸びしろがあると私は思ってるんですよ。あのね、英語で言うとね、ポテンシャルとかね、はい、Room for progress まだまだ伸びられる、今まで我慢してきたとかね。遠慮してきたとかそういうことがあるけれどもそれが、解き放たれたら、もっと伸びる可能性があるんじゃないかな、というのが私の最近の気持ちです。私なんかもうすごく古い世代ですから、ずっと共働きで、世間の冷たい目の中で仕事をしてきました。友達も親戚の人もみんな専業主婦の中で働いてきて、つらい思いはしてきたのですが、最近世の中の動きを見てるとね、アジアの女性は、伸びしろがあるっていうふうに私は思うんですよ。だから皆さんぜひ活躍してください。

まだ時間があるので、この機会にアジアの活動について要望など聞かせてください。

シワポーン： ちなみに上さん、今日の話っていうか、こういうことも面白いかなと思うのですが。女性でもあり、外国人でもあるっていう人たちが、日本の社会で、職場で、昇進に関してどのように扱われているか、そういうことも面白い話題になるんじゃないかな。

上： なるほどね、つまり今日は日本の女性、アジアの女性っていう、ジェンダーについて取り上げ方をしたけれども、日本で働く外国人全部、女性男性も含めて、日本の社会における外国人の活用についてですね。活用というあんまりいい言葉じゃないかもしれないけど、確かに日本ってすごく閉鎖的な社会ですね。だいぶ変わってきてはいるけどやっぱり孤島だったために、外から入って来る人たちに対する警戒心がすごく強くて、入国管理とかそういう意味ではものすごく閉鎖的な国だと思います。確かにそういうところはあると思うんですけども、今はもう本当に少子高齢化の社会を迎えていて、ものすごく変わらなければ外国の人に来てもらわなければやっていけないという状況が来ているので、外国人の受け入れ方について真剣に考えなければいけないときが来ていると思いますね。そういう意味では、アジアの新しい風は外国人の受け入れに力を入れていかなきゃいけないNPO だと思います。皆さんのアイデアね、こうしたらどうですかっていうようなことがあれば、どんどん教えてください。もちろんできないことがあるし、それ反対する人もいるかもしれないね、男性のなかには変革は嫌だっている人もいるかもしれないし、女性の中にもそういう人いるかもしれない。だけどいろんな人の意見を取り入れてできるだけ新しい風をアジアに吹かせたいっていうのが私の気持ちで

す。

(皆、納得の様子)

あのナディアさん、オンラインの仕事が始まる時間ですね。途中で抜けてくださってもいいですけど、何か言いたいことがありますか。そうそう聞きますね。日本の男性ですけど、ご主人、お手伝いしてくださる？

ナディア； 今、あちらで料理、今晚のご飯作っていますね。

上： そうですか、えらい、偉い。(皆がパチパチパチ)。

トウイ； はい私はシワポーンさんと同じ意見があって、元々私の研究対象者は外国人労働者ですから、外国人労働者に関するトピックがほしいし、もっとその声が大きくなったらいいなと思ってます。確かに今、日本の社会だったら高齢化とか、進んでいて、確かに外国人労働者が増えているんですけども、でもどの会社でも外国人を歓迎する環境があるわけではないですね。必要なんですけども、でも時々私、友達に聞いて外国人の差別はまだ残っている感じですけども、だからはい。ぜひいろいろお話聞かせてください。

王： 今回のような座談会はとても面白いと思ってます。今後もし可能であれば発言者と事務局の方だけじゃなくて他の会員にも ZOOM インしてもらって、発言者は何人かに絞った方がいいかもしれないのですが、他の方はチャットなどでコメントをどんどん出せるのでね、文字を通してでも盛り上がった方がいいんじゃないかなと思いました。

上： なるほどね、貴重なご意見をありがとうございました。アジ風の交流会では今までも一応そういう発言の機会を設けてはいるんですけどね。あるいはトピックをそういうふうに決めてやるという一つのアイデアですね。本当に今日はありがとうございました。とてもエンジョイすることができました。はい、ZOOM アウトしてください。



### 女性活躍のために声を出そう

金 秀仁

アジ風歴 10 年 清華大学出身

韓国龍仁在住 韓国企業勤務



女性の人権と社会的地位についての議論は古今東西を問わず古い論争である。韓国も例に漏れない。指折りの大企業や政府の高級官僚の中で女性の姿はなかなか見られない。ある人は男性に比べて女性の能力が足りないから要職を占めることができないと言うが、私の考えは違う。多くの才能ある女性が社会的視線と抑圧によって平凡に生きている。男性と同等の機会さえ与えられれば、女性たちも十分に自分の能力を発揮することができる。

その例として、2020年に全世界を混乱に陥れた伝染病である新型コロナウイルスの拡散及び感染予防のために、最前線に立って活動した韓国のチョン・ウンギョン(鄭銀敬)元疾病管理本部庁長について話したい。彼女は医者そして医療関係者であった。色々な職責を経たチョン庁長は MERS 発病当時の対応能力を認められ、初の女性疾病管理本部長になり、新型コロナウイルス感染症事態の時も全体的な状況を陣頭指揮した。髪を洗う時間ももたないで髪を短く切り、殺人的なスケジュールを黙々と消化する強い責任感と職業的使命は多くの人々に手本になった。例のないパンデミックだったが、韓国は理想的な初期対応でその被害を最小化した。もし彼女が女性だという理由で能力をまともに認められず、ただ補助する役割に止まっていたら、韓国はさらに多くの死傷者に向き合うしかなかっただろう。彼女の客観的な状況判断能力とリーダーシップは世界的に認められ、ある外信では彼女に「Virus Hunter」というニックネームを付けたりもした。また、2020年 BBC 今年の女性 100 人、Time 誌が選定した世界で最も影響力のある 100 人に名前を載せた。

私たちは幼い頃から女性性と男性性を強固にする環境の中で育つ。昼休みになると、男子生徒たちは素早くご飯を食べた後、運動場に飛び出してボールを蹴る。女子生徒たちはたいてい教室に残って友達とおしゃべりをしたり、好きなアイドルの映像を鑑賞しながら休み時間を過ごす。もちろん、それらも楽しいことだが、運動場で走り回る女子学生が男子学生ほど多かつたなら、また違った次元の楽しさを味わうことができたかもしれない。

長年にわたって形成された性固着化は、女性がする仕事、男性がする仕事を自然に分けるようになった。そしてどの分野に行っても男性は普通管理職、女性は一員として存在する。また、女性が主となる職業は大抵薄給だ。これに多くの女性は現実の壁を越えられず、現状に安住したりひいては夢をあきらめることもある。特に、謙遜を美德と考えるアジア文化圏で、女性が自分の存在感を堂々と表すことは容易ではない。より多くのアジア女性が世界舞台上で活躍するためには、絶えず問題提起をして声を出さなければならない。そうしてこそ、成長する少女たちが自分の偶像としてテレビの中でキラキラ輝くガールズグループではなく、国家的災難状況で、専門性を持って、落ち着いて対応する地味な中年女性を思い浮かべることができるだろう。

\*編集部註

元 I メイトの中村一郎さんは病氣療養中のため、コメントは頂いておりません。



## 女性アスリートの精神

鐘 希君

アジ風歴6年 清華大学大学院出身

広東省在住 高校日本語教師



2024年パリ五輪は、オリンピック史上初めて「男女の選手数が同数」となり、男女平等の精神を反映していると話題になっている。パリ五輪を振り返り、今回の大会で中国が勝ち取った40個の金メダルの中で、23個は女性代表である。私は何度もパリ五輪の競技場で、耐えて戦い続ける女性の姿に心打たれた。

15歳の陽思琪選手は中国四川省の山奥ところで生まれ育ち、8歳の頃初めて海を見た彼女は、9歳でサーフィンの練習を始めた。「人生は一度しかないから、好きなサーフィンは後悔しないように頑張る。実際、波は怖くないから、転ぶたびに帰って次の波を捕まえることができる」と彼女は波と戦う中で、自分の夢を追い続けていく決心を話した。五輪出場最多6回の倪夏蓮は年齢についての質問に対して「夢があれば、年齢はさまたげにはなりません。」と答え、今度また参加するかと聞かれると、「Never say never」と語った。年齢に関係なく夢を追い求めることができることを証明してくれる女性たちである。

中国の鄭欽文選手がテニス女子シングルの金メダルを獲得した。2008年北京五輪での李娜の4強入りがこれまでの最高だった。2014年全豪オープン女子シングルス決勝で李娜が初めて優勝したアジア人選手となった。12歳の鄭欽文がテレビの前にその優勝の瞬間を目で見て喜んで、そして10年後の今年1月、彼女も同じ大会の決勝に進出した。この運命的な引き継ぎについて鄭欽文は、「アジア選手でも優勝できるという夢を与えてくれた人だ」と李娜から受けた影響を語り、また「どの時代にも後継者がいる」と、自分の時代を創り出し、これからの女性に影響を与えようとする励ましの答えであった。

中国女子競泳の張雨霏選手が、白血病との闘病を経て復帰した日本の池江璃花子選手との試合がある時には、必ず彼女と抱き合って激励のことばを送っている。世界水泳選手権2023福岡大会では、張選手は手のひらに「be the best of yourself」と書いて池江選手にエールを送った。今回のパリ五輪の中でも、張選手は池江選手とピンを交換し、楽しく話し合う場面が撮られた。

女性が選手として初めてオリンピックに参加できるようになったのは、1900年のパリ第2回大会からである。2024年のパリ五輪で、男女参加数は同じで、中国の女性代表は男性代表と同じように、健康的で、強く、親切であり、また勇しく、人間が本来持っている品格を表現している。ただ単に競い合う試合だけではなく、卓越性を追求し、障壁を克服し、堂々と夢を手に行ける女性アスリートの精神が見えてきた。このような小さな私でも、もう少し踏ん張って行き、彼女たちのようになろうと、信じていきたいと思う。

元Iメイトのひと言

鐘さんとのIメイト交流から6年の時が流れ、日本文学研究者として成長される姿を楽しみにしてきた。大学院を卒業され、ご自身の母校（広東省深圳在の高校）に日本語教師として8月から勤務されていると伺った。鐘さんなら、きっと青少年への教育を通じてアジ風の期待する中国と日本の架け橋となられると確信している。加油！（西澤 逸実）

## 母をお手本として

ドゥアンケーオ・スットプラターナー  
アジ風歴 15 年 タマサート大学出身  
バンコク在住 大学日本語教師



私の母は中高等学校の家庭科の教師です。私は小さい時から母が先生の制服（公務員）を着て、私の朝ご飯を準備している姿をよく見ました。その後、彼女は学校で授業を行います。学生さんは半数がいろいろな少数民族で、農家の家庭が多いです。彼らは大学に行くのは難しい環境です。そんな彼らが将来自立できるように授業内容を工夫していました。例えば、タイデザート作り、野菜栽培、編み物、マッサージの仕方を教えて、次は実際に販売、利益、損失、などの経営・運営も体験学習してもらいます。母は学校の仕事を終えた後、夕飯を準備し、私の帰宅時間に合わせて、家族みんなと食べ始めます。寝る前に一緒にドラマを見ます。他の家庭はどんな日々だったのかよくわかりませんが、私にとって母は、身近に見る家庭とキャリア双方をがんばるタイ女性で、父はそれをさりげなく支えるタイ男性でした。母が私によく教えてくれたのは、「女性は必ず自分の仕事を持って自分の生活を送れる。自分で稼げれば、自分のやりたいことが自由に選べます。男性に頼ってばかりはいけません、男性は離婚したら他人になります。女性も勉強して、やりたい仕事をしていくことが大事」でした。

昨年私は結婚して、大学教師の仕事を続けています。夫は私の仕事を優先してサポートしてくれています。仕事に夢中になりすぎたら、彼を寂しくさせるかもしれないと思いますが、彼は楽しく働いている私の姿を見るのが好きで、大学教師のキャリアを続けてほしいと言っています。また、タイの組織のよいところは、女性でも昇進のチャンスが十分あるところ。妊娠すれば、周りの人に声をかけて、対応を工夫してもらえます。しかし、産休の期間はたった90日間で、45日間分しか給与はもらえません。途中で仕事復帰をする人も少なくありません。夫婦二人の収入がないと家計が苦しいです。そこで、双方の両親が昼間に赤ちゃんの世話をすることも多く見受けられます。このように周りの人々が働くタイ女性を支えています。

アジア・タイ女性の活躍は、女性本人の力そのものだけではなく、両親、夫婦、上司、友達等周りの人々（多くの男性）の意識と支える力も大変大切で不可欠なものです。女性の力を信じて支えることは、男女関係なく誰でもが成長でき、本当の意味で豊かな社会をつくることにつながっていくと考えます。そういう社会の一員となれるように、私も精進していきたいと思っています。

### 元Iメイトのひと言

りぼんさんは、タイ人女性として生まれ育ちました。日本留学、就職を経験。現在はマヒドン大学で日本語教師として働き、グローバルな女性としてまた人間として、成長し続けています。学生のために尽力する中で、ともに成長し幸福になれることを実感しているようです。元Iメイトとしてこんなにうれしいことはありません。（森 郁子）

## 女性の天職と転職

ライ・ティ・ジュエン  
アジ風歴4年 貿易大学出身  
東京在住 ベトナム IT 企業勤務  
賛助会員



これまで、ベトナムの IT 企業や、ベトナムにある日系製造会社、日本の役所など、いくつかの職場で仕事を体験してきました。振り返ってみると、社風や方針などにはそれぞれ特色がありますが、共通点は、管理職や役職がほとんど男性で占められており、女性役員の割合が極めて低いことです。この現状の背景には、男性が家計を支える大黒柱であるという、封建時代からの根強い考え方があると考えられます。最近のベトナムでは、「女権」という概念が取り上げられ、SNSなどで女性の権利を守ろうというような投稿を頻繁に目にするようになってきました。一方で、「女性の権利」の名の下で、女性だからといって特別な扱いを求める人や、その権利を濫用する人も多く見受けられます。これは、女性が尊重されるべきという主張が正当化される一方で、かえって対立を生むこともあるのではないかと思います。

個人的には、女性であることのデメリットを深く考えたことはなく、実際に女性であることで不利を感じたことも特にありませんでした。むしろ、時には男性よりも優しくされていることがあり、女性で良かったと、思うこともありました。しかし、最近、転職活動をしている中で、初めて女性であることに不利を感じる経験をしました。面接で採用担当者から、「当社は入社して3年間、結婚や出産の予定がなく仕事に専念できる女性を望んでいますが、あなたはどうですか?」と、聞かれたのです。子供を産んで産休を取ると、同僚に負担をかけてしまうため、その点を気にしているらしいです。会社の立場から考えれば理解できるものの、女性として、女性の天職である「妻」や「母親」を果たす一方、キャリアチャンスも限られることを痛感しました。やはり、女性が家庭と仕事を両立させるのは非常に難しく、成功するケースが稀です。もし自分が男性なら、きっとそのような質問はされなかったでしょうし、制限なく自由にキャリアを積むことができたと思います。

このように、男女平等が進んでいるとはいえ、職場での役割やキャリアチャンスには未だに性別による差別が存在しています。ここで述べたのはあくまで一例であり、女性が直面している壁は他にも多くあるでしょう。今後は、社会全体が男女平等を進めると同時に、女性がキャリアと家庭の両立を果たしやすい環境づくりや現実的なサポート体制の整備が重要だと思います。

\*編集部註

元 I メイトの中村一郎さんは病氣療養中のため、コメントは頂いておりません。

## アジアの女性の活躍

チャン・トゥイ・リン

アジ風歴8年 貿易大学出身

ハノイ在住 日系企業勤務



欧米に比べると、アジアの女性の地位が低いと言われていますが、アジアでも近年は女性の社会進出が促進され、女性の活躍の場が広がり、地位も向上しています。

私は日本の IT 企業でビジネスアナリストとして働いています。IT 分野は一般的に男性の仕事であると考えられていますが、実際には弊社でもビジネスアナリストやテスターだけでなく、女性の開発者も多く活躍しています。私達は生活に便利なモバイルアプリやウェブサイトの開発に携わっています。さらに、チームリーダーやプロジェクトマネージャー、技術的な高いポジションのテックリーダーに出世している女性の同僚もいます。

ウェブを閲覧したりアプリを使用するたびに、それらを作り出す方法に興味を持ち、それが私がプログラミングを学ぶきっかけでした。ウェブページや新しい機能、エフェクトを作成できると、とても嬉しいです。その喜びは私がこの職業を就こうと思ったきっかけです。プログラミングは大変だと言われていますが、常に征服したいという欲求を持ち、自己を証明したいと思っています。また「IT の仕事は男性にしか向いていないという固定観念を払拭したいです」と弊社のテックリーダーでありチームリーダーでもあるグエン・クイン・チーさんは語っていました。

最近、ベトナムでも女性の起業や会社設立、女性の政治参加などについての話題がメディアでよく取り上げられています。その中で、特に ONE-VALUE 株式会社の CEO であるファイホアさんの活躍に感動しました。彼女は約 10 年間、多くの日系大手企業に対して、ベトナムに関する経営コンサルティング業務や市場調査、M&A アドバイザリー業務を行っており、グローバル女性リーダーとして広く知られています。

私の元 I メイトである児玉久美子さんのことも話したいと思います。約 50 年前の日本では、結婚している女性が社会進出することは珍しい時代でしたが、結婚し、子供が生まれた後も仕事を諦めずに続けました。家族や子供の世話を両立しながら、仕事があり、経済的に独立し、社会活動にも参加し、充実した生活を送っています。久美子さんの頑張っている姿が私の励みになっています。

教育、労働環境、権利と意識の向上が進むことで、今後アジアの女性はさらに活躍の場を広げ、社会全体の発展に貢献することができるでしょう。

### 元 I メイトのひと言

チャン・トゥイ・リンさんは以前日本語教師をされていたのですが、育児のため平日勤務の仕事に転職されました。今は、日本の IT 企業のビジネス・アナリストとして働いています。経済学部卒の知識を活かすことができ良かったと、私も喜んでいます。（児玉 久美子）



## 貿易大学の二人のOBと意見交換

グエン・トック・マイン

アジ風歴5年

ホーチミン在住 日系企業勤務

グエン・ダン・ソン

アジ風歴 4年

ハノイ在住 IT企業勤務

**島村→マイン君、ソン君** アジ風が「アジアの女性活躍」について、OBから原稿を募っています。



**マイン→島村** アジアは多様な文化や経済状況を持つ地域であり、女性の活躍についても国ごとに異なる状況が見られます。しかし、全体としては女性の社会進出やリーダーシップの向上が進んできています。ベトナムでは2021年の女性労働参加率は約72%で、アジアの中でも高い水準にあります。さらに、女性の高等教育進学率が増加しており、2019年には女性の大学進学率が52%に達しました。また、女性起業家の割合は25%に上り、労働参加率は72%と高く、教育水準も向上しています。特に、IT産業やサービス業では、女性が重要な役割を果たしています。2019年のデータでは、IT企業における女性の割合は約30%であり、他のアジア諸国と比べて高い水準にあります。

ベトナム政府は、女性の権利向上やジェンダー平等の推進に積極的に取り組んでいます。例えば、労働法では、職場でのハラスメント防止策が導入されています。また、ベトナム企業の多くでは、女性が管理職やリーダーシップポジションに進出することが奨励され、2018年の調査によれば、約25%で女性が上級管理職を務めています。

一方で、アジアにはまだ多くの課題が残されています。女性の教育や就業機会が限られている地域や、職場での性別による差別やハラスメントが根強く残る国もあります。こうした課題を解決するためには、政府や企業、教育機関などが連携して取り組む必要があります。特に、科学技術や工学、数学などの分野での女性の参加を促進することで、将来的なキャリアの選択肢を広げることができます。

アジア全体の持続可能な発展のためには、女性の力を最大限に引き出すべきです。ベトナムでも女性は家庭とキャリアの両立に挑戦しています。特に、労働参加率が高い一方で、女性が家庭内での役割も担うことが多いため、時間的・精神的な負担が増える懸念があります。これに対して、社会や企業の女性のサポート体制が今後の課題となるでしょう。例えば、柔軟な働き方の導入や育児支援の強化、男女平等の意識向上などが求められます。政治家の割合で日本を大きく上回るベトナム(27.1%)は、女性の意思決定プロセスへの参加が進んでいることを示しています。ベトナムの女性は、すでに高い労働参加率(72%)と上級管理職の割合(25%)を誇っています。この傾向は今後も続くと予測されます。次世代の女性がさらに多くの専門職やリーダーシップポジションに就くことが期待されています。

**島村→マイン** レポートを有難うございます。ベトナムの女性活躍の進行は凄いですね。数字が入り、分かりやすい論旨です。日本の比率を比べてみました。

- ・女性の大学進学率 日本 50.7% 短期大学を含めると 58.6% ベトナム 52%
- ・女性の労働参加率 日本 53.5% ベトナム 72%
- ・女性の上級管理職 日本 14.9% ベトナム 25%



・女性の国会議員の割合 日本 8.4% ベトナム 27.1%

日本では、長く男女別のライフスタイルが見られましたが、近年は大学卒業後、女性が就職し、結婚、出産を経て、働き続けることが、かなり一般的になりました。しかし、女性の負担という点で問題は多いです。これについてはどう考えますか？日本では、男性社員が育児休暇を取得し家事を分担するというシステムが導入されてきました。

**メイン→島村** 私個人は、結婚したら妻と家庭の仕事を共有したいと考えています。家庭においても、男女が協力して家庭責任を分担することが重要だと思います。共働きが一般的となっている現代社会では、家事や育児を互いに協力して行うことが、仕事と家庭のバランスを保つために不可欠です。例えば、日本のように育児休業を夫婦でシェアする制度の普及や、職場での柔軟な勤務時間の導入が進められることで家庭内での協力体制が整うことが期待されます。

**島村→ソン** あなたは昨年一年間、カンボジアのIT企業で働き、ベトナムとは違う文化を体験しましたね。考えを聞かせてください。

**ソン→島村** 最近のアジアの女性活躍は著しい。私の経験から、ベトナムと、僕が働くカンボジアのIT企業の例を挙げようと思う。両国をはじめ、全般的にアジアの女性は家事に集中することが多い。昔の女性のイメージは子育て、ご飯作り、農業に結びついていて、実際ほとんどの女性は学校に通うことが出来なかった理由は、その年代の彼女たちの役割がただ子供の世話をし、毎日の家事を行うだけと考えられていたためだろう。しかし、私は戦争時代における女性の役割が非常に重要であると見た。彼女たちは兵士を支援し、食料や武器を運ぶのに関わり、時には兵士としても参加した。



ベトナムの女性たちは多くの分野で活躍するようになり、企業で働く女性がこれまで以上に増えている。ベトナムでは、多くの女性が企業をリードする重要な役割を果たしており、ベトナムの社会があらゆる分野で女性の重要性を強調していることを示している。

一方カンボジアでは、女性が多くの分野で台頭しているのを見たが、まだ大多数の女性は主婦として家を守り、農業活動や子育てに専念している。たとえば、私の所属部署では、技術分野で働く女性は1人だけ。さらなる発展のためには、性別バランスが必要だ。今、私の友人たちは現代生活における女性の役割の概念を変えつつある。大学時代の親友の一人もすでに結婚しているが、大企業でのキャリアラダーに挑戦することに情熱を持っている。彼女は修士号を取得しながら子供を持ちたいとも考えている。したがって、将来、アジアの女性たちは家事をうまくこなすだけでなく、大企業で働くことにも挑戦する役割を果たすと信じている。

元Iメイトのひと言

今回ご紹介したのは、いずれも元Iメイトで、今でも交流が続いているメイン君とソン君です。この二人は貿易大卒の先輩、後輩の関係ですが、とても仲が良く、ソン君は「お兄さん」と呼んでメイン君を慕っています。三人でメッセージャーを使い、交流しています。

(島村 美智)

## お互いを尊重することは男女平等の基本

アウリア リフキアナ アジクリ  
アジ風歴4年 パジャジャラン大学出身  
ジャカルタ在住 日本語教師



私はアジア人女性として、よく考えている悩みがあります。それは、社会での女性の地位のことです。女性の地位が男性より低く見なされている状況をよく見ます。女性はお金を稼げないので、夫の言うことを聞くだけでいいと考えられているからです。それでも最近は、多くの女性が働き始めていますが、女性はまだ低い地位にいます。例えば、会社では女性が高位のポジションや高い給料を得ることはあまりありません。あるいは、ドラマでよく見ますが、女性の主人公が義理の両親と会うときに、「なぜ女性は働くの？女性は家にいて、家と子供の世話をすべきだよ！」というセリフがよく出てきますが、実際の生活でもそうだと思います。では、本当の問題は何でしょうか？

問題は、私たちみんながお互いを尊重していないことだと思います。女性が以前よりも努力しても、どんなに高い地位にいても、尊重されなければ、何も変わりません。

例えば、私の母です。母は幼い時に結婚してからは姉が生まれるまでは主婦でした。しかし、家の経済が苦しくなると、母は家族のために一生懸命働き始めました。当時は、母が成功するとは誰も信じていなかったと思います。特に母は「女性は主婦であるべき」と言われていた時代に生きていたからです。しかし、仕事に成功し、母は海外に行ってさまざまなものを買うことができるようになりました。その時父はいつも母の偉さを自慢していました。母が亡くなったとき、私は母が知らない人からも感謝されていたことを知りました。「いつもあなたのお母さんに手伝ってもらったので、とても感謝しています」と聞いたとき、母は他の人からもとても尊敬されていると感じました。私もそうなりたいと思いました。母は独学で新しい仕事をしたり、大変な努力をした仕事で成功しましたが、頑張りすぎて病気になってしまいました。

女性が主婦として家を守る人でも、会社員で一生懸命働く人でも、女性の社長でも、お互いが平等で尊敬し合う事が出来なければ、女性の地位は変わりません。女性でも男性でもお互いを尊敬しあえて、平等になれるような社会になって欲しいと思います。

### 元Iメイトのひと言

リアさんは現在日本に技能実習生を送り出す機関で日本語教師と通訳をしています。学生の時は交流コーディネーターをしていましたので、2か月に1回以上Zoomで出会っていましたが、この度久しぶりに何度か電話で話をし、その成長ぶりが伺えました。インドネシアでも女性の社会進出はまだ遅れていますが、亡きお母様の家族への思いと仕事に対する人一倍の努力等を思い出し、現在仕事に励んでいます。そして、嬉しい事に来年には日本男性と結婚の予定との事。今から花嫁姿が目に見えます。(古海 正子)

## オンライン座談会

### 海外赴任先で見た女性の活躍 見たまま聞いたまま

2024年9月1日

司会：小関高志

参加者：中本寧 鎮目博之 北郷和博 乃万克也 斎藤利治

**小関：** 皆さんおはようございます。本日の司会をおおせつかりました小関と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。今日は、「アジアの女性活躍社会」というテーマをベースにして、各国で赴任とか、あるいは現地に行かれて仕事をされたというご経験をお持ちの方々に、お集まりいただきまして現地での状況をお話しいただこうと思っております。よろしくお願ひ致します。では、まずそれぞれ自己紹介をお願いします。中本さんからお願いできますか。

**中本：** 中本と申します。前職は金融関係の仕事です。90年から91年が台湾の師範大学に語学研修に行きました。その後93年から97年が北京、97年から99年上海、それから2001年から2007年が台湾におりました。私どもの会社は現地化が進んでおり、基本的には現地の方の管理職が多かったのですが、その中でも結構女性の方が半分近くいらっしゃったと記憶があります。今回は中国、台湾駐在の方が多いので駐在時期ごとに、いろいろお話を聞かせていただければと思っています。



**小関：** では鎮目（しずめ）さんお願いします。

**鎮目：** おはようございます、鎮目博之です。今年8月13日からまたタイに赴任しております。私の人生の通算25年ほどタイに住んでおり直近の3年間だけ、東京の親会社におり、今月からまたタイにいます。配偶者はタイ人で、子供が2人。子供は日本とタイの二重国籍者で、日本の方とはちょっと違う感覚で、私の見てきたものをお伝えさせていただければと思います。

**小関：** ありがとうございます次は北郷（ほんごう）さんお願いします。

**北郷：** 北郷です。よろしくお願ひします。私は台湾に2回、10年駐在しました。時期が40年前から30年ぐらい前です。その後は上海で、これも20年前ですので、今は働き方にしてもしずいぶん変わっていると思います。商社で年功序列制度、定年までいるのが当然というような感じでした。今はキャリアアップの機会を目指してみんな転職する時代ですね。定年後は外資系の企業と弁護士事務所のスタートアップ企業におり、英文契約書の分析をやり、AIに学ばせるという仕事をしていました。弁護士では女性の方が非常に活躍をしていました。外資系にいた時も女性の方が活躍していましたので、そういう話を中心にさせていただこうと思います。現在は中学校のクラブ活動の指導員をやっております。

**小関：** 次は乃万（のま）さんお願いします。

**乃万：** 乃万です。駐在経験はありませんが中国には6～7年毎月出張し年70～80日くらい居たので、その経験をもとにお話したいと思っています。私は入社が1981年で、バブルの前の10年間とその後の失われた30年を日本にいて、海外関係の仕事にも関わりました。製鉄会社だったので、円高ショック以降海外へシフトする移転需要を追いかけ、タイでコイル

センターを立上げたほか上海では外壁パネルの生産販売会社を作りました。直近は、鉄鋼物流の会社におり、中国、韓国、台湾に出張していました。現在はリタイヤしてインバウンドの観光起こしを手伝っています。昨日ですが、上海の友人2人に WeChat で会話したので、それもご紹介できたらと思っています。

**小関：** では斎藤さんお願いできますでしょうか。

**斎藤：** 斎藤利治と申します。座談会のご案内をいただいた時に面白そうなテーマだなと思いましたが、駐在経験が30年以上前のことになるので躊躇していたところ、事務局からお誘いがありましたので参加させて頂きました。アジ風入会は2013年ですから、約11年になります。私がアジ風に入会した当時は、交流校の中にインドネシアがなかったのですね。当時、海外で日本語を学習している人数は中国が最も多く、次に韓国とインドネシアが拮抗していました。こんなに日本語を勉強している人が多いのに、なぜインドネシアと交流しないのだろうと入会時の面談で申し上げたところ、ぜひ、インドネシアの大学とのコンタクトに協力してほしいと、逆にお願ひされてしまいました。そこで、8年ぐらい前のことになりますが、パジャジャラン大学を訪問して交流実現への協議に参加いたしました。



駐在経験は91年から4年間はジャカルタ、それから97年から2001年まで北京と2回です。今日は中国に関係された方が多いと伺っていますので、私からはインドネシア駐在時に私自身を感じたままをお話しできればと思っています。よろしくお願ひします。

**小関：** では最後になりましたが、私は2001年からホーチミンに2回、あとハノイに1回赴任しました。通算8年ほどいました。会社はメーカーでホーチミンは医療消耗品の生産工場、ハノイは、カーボンファイバーを使った飛行機の部品を作る工場でした。ハノイ駐在の時にホーチミン時代の知人でアジ風会員の佐藤さんと現地でお会いしてそれがアジ風入会のきっかけになりました。

## <各国での女性の活躍に関する経験談、エピソード>

**小関：** では早速座談会の形で各国の女性の活躍に関する経験談やエピソードについて進めていきたいと思ひます。

最初ですので私からベトナムでの様子をご紹介していこうと思ひます。ベトナムには5年ほど前までいましたけど、女性がメインで働く社会というのが印象です。おそらく東南アジアの国々は同じかなと思ひますが、朝工場に男性が奥さんをバイクで送り、夕方迎えに来るというパターンです。女性が一生懸命働いている社会で社内・社外ともにずいぶん多くの女性にお世話になりました。ホーチミンの工場は1500人位いましたが医療消耗品の工場で9割以上女性でした。スタッフも60名位おりましたが8割ぐらひは女性だったと記憶しています。ハノイは800人ぐらひで男性女性半々ぐらひでしたが、経理、総務といったスタッフ部門は9割方女性だったと記憶しております。特に通訳は圧倒的に女性が多かったですね。あと社外でも物流関係、会計事務所、コンサル、あるいは行政でも女性の担当者か女性の責任者が多かったです。現場の技術職は男性が多くなりますが、圧倒的に女性が働く社会だったなというふうに記憶しています。ベトナム戦争でかなり男性が少なくなり、女性が必然的に働いて生活を支えなけれ



ばいけなくなったという背景があると聞いておりました。女性の活躍というよりも女性に支えられた駐在生活だったかなと思います。では次に中本さんお願いします。

**中本：** 私の会社は金融で営業にしてもスタッフ部門にしても女性が半分ぐらいたかなっていう感じです。管理職も女性と男性との割合は4：6ぐらいだったと思うのですが、女性も管理職になっていました。特に上海の時は合弁先の百貨店の副社長が女性の中国側責任者でしたし、合弁した銀行から派遣されてきた社長も女性だったので管理職は女性が活躍していたなと思いました。ベトナム戦争の話がありましたけど、中国も毛主席が「中国の女性は天の半分を支えている。」と言っているぐらい女性が活躍していて、おそらく日中戦争そして国共内戦後、かなり大変だった時代に女性の労働力に頼らなければいけないようなことがあったと思いますね。それから台湾もやっぱり女性が働けるようにするために、親御さんがものすごく自分の孫とかの面倒を見るっていう社会的な構造になっているので、そこも女性が働きやすい前提になっていたのかなと思います。

**小関：** ベトナムも家でおじいちゃん、おばあちゃんが子供の面倒見るというのが一般的でしたね。ではタイの事情を鎮目さんお願いします。

**鎮目：** タイももともと女性の社会だと思います。私は鉄鋼商社でコイルセンターといって鉄板をお客様の必要なサイズに加工する工場です。私が今赴任している会社はタイで3社目になります。コイルセンターですが、その前の2000年から2021年まで、その時は3つ工場があり、3つの工場のうち、1つ目の工場は男性が工場長、2つ目は女性が工場長、3つ目の工場がオカマの人が工場長でした。タイにおいては男女とか、そのLGBTとかそういった概念がなくて、差別がないのですね。この座談会の趣旨と外れてしまって恐縮なのですが、こういう女性の社会進出とかテーマを取り上げられるというのが、日本から見た発想じゃないかという気がしています。タイの社会は、もともとそういった差別がなくて、むしろ女性が真面目で勤勉、なおかつ男女の出生の比率も20年ぐらい前までは女子の方が男子より多かったですね。男女差別とかそういったことはなくて各管理職も、女性の比率が多い。例えば今回赴任して取引銀行に自分の預金口座を開きに行ったのですが支店長さんは女性です。金融関係でも各銀行支店長さんは女性の方が男性より多いです。

日本からいろんな鉄鋼材料を輸入しますので、税関と交渉しますが局長クラスの方はやはり女性の方が多かったですね。政治家関係では議員数では男性のほうが数は多いですが、新しいタイの政権では首相が女性です。

あと、今年正式に同性の婚姻、同性婚が認められるようになりました。女性が普通に社会を引っ張って活躍され、一家の大黒柱であるというのは当たり前というところで通算25年間ほど生活してきましたので、皆さんとちょっと感覚が違っているかもしれません。



あともうひとつ、ある日系100%の競合他社ではタイは女性が優秀だということで管理職、工場長、現場の作業全部含めて全員100%女性という会社もありました。

**小関：** こういうテーマをあげることで自分が日本の発想だという感じですかね。

**鎮目：** はい、私は逆に日本に3年しかいなかったもので、そう感じますね。

**小関：** やっぱり日本に戻られた時そういうギャップを感じますか？なんでこんなにも男が多



いのだろうというような。

**鎮目：** 日本ではそうです。逆に日本の女性に活躍を期待しています。

**小関：** ありがとうございます。では次は北郷さん、お願いできますでしょうか。

**北郷：** 私が台湾に赴任したのは40年前ですね。合弁会社を2つ立ち上げたのですが現地法人の設立手続関係と管理部の仕事を10年やりました。その時思ったのは女性のマネージャーの方が日本よりもかなり多いなど。女性の方がはっきり発言される。40年前の経験ですが今は働き方も随分変わってきています。当時は年功序列制度、終身雇用が主だったのですが、今転職なんか也大いにあり得る社会になってきたのではないかなど。特に定年後に外資系企業にいてそれを感じました。



中国駐在時代強烈に印象に残っているのは女性のマネージャーと話した時です。私が「大学卒業後、入社して定年まで勤めるでしょう。」と言ったのに対して彼女が、「ずっと同じ会社に勤務するという事は中国ではあまり考えられません。能力をさらに伸ばしたいとか、より多くの給与を欲しいと思った場合は転職でより良い給与、待遇を、さらに上の能力の向上の機会を求めています。」と言うのですね。「中国では、ずっと同じ会社にいる人は向上心や能力があまりない人が多いです。」と言われて、私はだいぶショックを受けました。外資系の会社に入った時ですね、強烈にびっくりしたのは日本の商社は稟議制度で審査部とか経営企画室とか財務とか、いろんな部署を通して一つのテーマが承認されるのに2～3週間かかる場合もありました。外資系では指揮命令系統が明確でマネージャーも権限を与えられているので、意思決定が非常に迅速です。そして女性が結構活躍していらっしやる。外資系ですから共通語も英語ですけど、自分の意見をはっきり伝えられるという能力があって知識や経験が豊富な女性の方がいっぱいいらっしやって、ものすごく活躍しており、日本の男性社会とちょっと違うなと感じました。

その後、弁護士事務所のスタートアップ企業に入りました。英文契約書の分析をして弁護士が正しいかどうか判断したものを何万件というデータをAIに学ばせてAIが契約書を分析するソフトを使っていました。私の上司がカナダ人の若い弁護士だったんですが、非常に能力があって知識なんかも豊富で非常に親切に丁寧に教えてくれる。国際的な社会にだんだんっていくのかなというのを思いました。話がアジアにおける女性の活躍とは違いますが私の思った感想です。

**小関：** はい、ありがとうございます。では次に乃万さんお願いできますでしょうか。

**乃万：** はい 限られた経験で申し上げたいのは、個人の意識と社会の受け皿がどの様に噛み合っているのか、個人個人がどんなことを意識し行動しているのかということをお話したいと思います。

先ほど中本さんがおっしゃった中国の働き方という意識のレベルで言うと、建国以来男女は同権だ、一緒になって国を作ろうという背景が大きく作用していると思います。昨日話した友人によると、男女同権は当然であり女性も能力を発揮する事を期待されていると言っていました。女性の方が向いている職業では、認められた女性はどんどん上に上がっていき、いろんなところでリーダーシップを取る女性も生まれる、そういった素地が中国社会にはすでにあるのではないかとっていました。中国は既に「女性活躍大国」だと思います。

逆に、日本は自国の方が遅れているのを知らずに他国と比較したがっており、その前にもっと自分の国を見直すべきじゃないかと思います。そういうふう今回の座談会の意義を感じているところです。それからエピソードをいくつか申し上げると仕事で出会い、テーブルの向こうに座るのは女性が非常に多かったです。担当、通訳、あるいは責任者などいろんな立場がありますが、交渉する相手が女性だったという経験が多いです。アジ風で交流した一人の女性は、日本ではなくアメリカに留学しアメリカで就職しました。今もアメリカで活躍しながら日本語も忘れずにいる、そういった人もいます。また、自国で就職し法律の世界に入って活躍している女性もいます。この2人に共通するのは語学力です。日本語や英語が達者になるとチャンスの扉が海外に向けて広がります。意欲を持って活躍している女性が日本に比べて非常に多いと思います。データを見ると、中国の女性の労働比率は欧米に比べても非常に高い様です。管理職になる比率も非常に高く、日本が4%と低いのに対して、中国は11%でアメリカとほぼ同等です。数字でも分かるように中国は既に「女性活躍大国」だと言えます。

最後に、昨日聞いた現地の話では、この様な中国の事情は都市部の話であり、体力優先の職場が残っている地方では女性が活躍する場が少ないので単純労働につく人も多いとのこと。我々がアジ風を通してお付き合いする各国の女性男性の学生の方々は、国を越えてどこで活躍しようかと虎視眈々と狙っているのではないかと思います。

**小関：**「女性活躍大国」ということですね。次のテーマにも続くところがあります。次は、斎藤さんお願いできますか。

**斎藤：** インドネシアにおける女性の立場は他の国と少しばかり様子が違いまして、やはりイスラム教という大きなバックグラウンドに影響されていると思います。

世界経済フォーラムが毎年出していますジェンダーギャップ指数ですが、今年6月のデータでは日本は相変わらずアジアの中では一番下の118位。ちなみにインドネシアが100位、ベトナムが72位、タイが65位、中国が106位。インドネシアは日本や中国よりもいいのですがイスラム教の縛りがあって、なかなか女性は前面に出てこれられないのではないかという印象があります。これは家父長的な考え方というか、なんとなく（女性活躍に）否定的なものがあるのかなということを感じています。基本的に男性は一家の稼ぎ頭で女性は家を守って子供を育てる…昔の日本と同じですね。これは今でも変わらないと思います。また、インドネシアの婚姻法では建前は夫婦平等ですが相続の時などは今も男性を優位に扱ったりするようです。全人口の87%ぐらいがイスラム教徒という国ですので、そういうところでジェンダー意識というのが日本と同じでなかなか国民的な共通認識にならないのかなと思います。

私の事務所と同じビルに日本の政府関係機関のオフィスがあり、そこでは結構な人数の女性スタッフを抱えていました。ただ、彼女たちが結婚すると退職しちゃうというのです。日本も昔は寿退職などと言って結婚すると辞めなきゃいけないといった風潮がありましたけれど、当時のインドネシアでも結婚しても仕事を続けますというような人は多くなかったのではないかなという印象です。

**小関：** ありがとうございます。イスラム教という宗教的なバックグラウンドが強いという感じですか。

## <女性活躍での日本との相違>

**小関：** 次の女性活躍での日本との相違についてのご意見を伺いたと思います。

また、私から申し上げますと、私が思っているベトナムと日本の違いというと、ベトナムは女性が働いている社会ですし、今お聞きした限りでは、インドネシアを除き他の国も同様に女性が随分活躍されているのかなと思います。今は共働きという言葉自身が死語になりつつありますが、日本では男性が外で働いて女性が家を守るという考え方はまだ根強いと思います。あとベトナムの事例をご紹介しますと、ハノイに女性博物館という博物館があります。女性にフォーカスして、女性の服とかも展示していますが、初めて行って一番印象的だったのはベトナム戦争時代に女性が戦闘で活躍している映像の紹介でした。笑いながら大砲を撃つ女性の映像を見て、いやベトナムの女性はすごいなーと思ったのを記憶しております。女性がリスペクトされる文化なのが日本と大きな違いだなと思いました。では次は中本さんお願いできますでしょうか。



**中本：** あの一番大きい違いは2つあると思います。一つは家事の負担です。結婚して子供が生まれると中国から親御さんがやってきて1年ぐらいい一緒に暮らして孫の面倒を見るっていうのがすごく普通なのですよね。日本だと考えられない。産んだばかりで田舎からお母さんが出てきて1週間ぐらいいるっていうのはあると思うのですが、1年もいるっていうのはないですし、上海の知人はカナダに行って子供の面倒を見てそのまま居ついちゃった人もいます。そういうのが普通なので家事の心配はないっていうのがありますね。5年前に中国から私の母校に来た女子留學生の修士論文をお手伝いしたのですが、最後修論を書き終えて日本で就職するのか、中国に戻るかということで、本人はものすごく悩まれていました。最終的には日本では管理職になるのが非常に難しいのと、結婚して出産もしたいのだけど、日本だと完璧ワンオペ家事になってしまうので無理だということで最終的には中国に戻ったというケースがあるのですが、一つ大きな問題かなと思いますね。

もう一つはやっぱりロールモデルがいるかいないかっていうのは大きな違いだと思います。台湾はついこの間までの総統が女性ですし、非常に女性の活躍が目前で見える。自分の上司も女性、そのまた前の上司も女性ということで、自分がキャリアプランを描いていけるんだなあと。ロールモデルがあって自分の方向性が見えるんじゃないかなと思います。一方で日本は最近でこそ女性管理職が多くなりましたが上場企業の平均で12から13%という状態です。私がいた会社はどっちかというともい方で18%ぐらいでしたが、ラインの女性管理職はほとんどいなくて、スタッフ部門の女性管理職がほとんどでした。メインのライン部門に女性管理職がおらず、ロールモデルがないので結果的にライン部門でどんどん上がっていきこうという人が少ないのではないかというイメージです。

**小関：** ありがとうございます。家事のこともまったくそうですし、蔡英文総統みたいなロールモデルとかいらっしやいますね。鎮目さんお願いできますか。

**鎮目：** はい、小関さんや中本さんのお話に共通するところが多々あります。約3年弱東京の方に行っていました。東京に行く前まではタイでは女性が真面目で勤勉で優秀であると思っていましたが、なんのなんの。実は日本の女性も優秀であると。日本の女性がいなくなったら私

の職場ではスタッフの男だけで何もできないではないかと。その時思ったのは、これはもう日本の社会構造というか昔から歴史や文化であると。本来は日本も女性は優秀な人がいっぱいいるが女性が活躍できないような文化や社会にしているのではないかというのがこの3年間の日本での感想です。私の会社でもご多聞に漏れず、日本の行政主導で社会が男女の差をなくせという要求がありますので、女性管理職の登用ということをやっているのですが、何人かの優秀な方に職掌転換して管理職になりませんかとお声掛けするんですが、たいてい女性の方から断られるんですね。「結構です。私は今のままでいいです」と。タイの方なんかはもう基本的にそういう男女の差別とかありませんから普通に女性でも男性でも真面目で一生懸命やられる方は、当然それらのポジションにつけます。女性の方が真面目な方が多いので、各業界で、鉄を使うような危ない工場でも女性の工場長や女性のライン長もいらっしゃいますし、そういったメーカーや工場関係でも当然事務所では女性の管理職が多いということなんでね。逆に日本の方が、無理やり社会や価値観が男性優先で、その法令や社内の制度によってですね、無理やり女性を登用しようとしているというふうに私は感じました。それがやっぱり日本とタイの大きな違いかなという気はしました。

**小関：** 目の前で今まで感じておられたことって生々しいところです。私も鎮目さんと同じように、女性に昇進進めても「結構です」と言われたことが日本でありましたね。その辺のファンダメンタルズっていうのは違うのかなとは感じます。

**鎮目：** 先ほどは中本さんの話で家事の件がありましたが、タイの場合は女性が出産したら1か月か2か月でまた職場に復帰するのは当たり前の社会ですね。法律上は3か月間休んでいいと認めていますが、3か月間休む方ってお金に余裕があるとかまた特殊な事情がある方であって、基本的にはまあ普通に1か月で戻っています。なぜ戻れるかというのは田舎からそのご両親なりが出ていらっしゃるか、田舎にお子さんを預けられるか、もしくはまあ男女で共働きが多いので管理職クラスになると、子守を雇えるお金があるということで、子供ができて女性もすぐ職場に復帰しています。ところが日本に来てびっくりしたのは出産をすると女性が1年間くらい休んじゃうんですね。会社の制度なので別に悪いことじゃないですけど。最近なんか男性の育休休暇っていうのも会社で進められていて男性の課長クラスでも3か月とか4か月休んじゃうっていう人が結構周りにいましてびっくりしました。逆に生産性の低下を招く社会構造じゃないかと思いましたね。タイなんかは別に女性が出産しても別に何も差別ないし女性自らまたすぐに復帰して働きたいと希望します。別に会社がすぐに働けと強制するわけじゃありませんが、基本的にまるっきり違う社会だというふうに感じました。

**小関：** タイでは男性の育休はないのですか。

**鎮目：** 男性の育児休暇とは聞いたことないですね。男性の育休というのはまだないでしょう。

**小関：** わかりました。ありがとうございます。北郷さんお願いできますか。

**北郷：** 日本のあと外資系企業とかスタートアップ企業にいて、相当な差を感じました。日本の商社にいた時は女性には転勤とか結婚と出産とかそういった現実が結構重くのしかかってくる。ところが外資系企業、スタートアップ企業では最近女性の方が出産後も活躍していらっしゃるんですね。大半が海外の大学に留学もしくは帰国子女が多くて語学力はものすごく達者な方がいました。また知識や経験も豊富な方もいました。日本の社会とは違うなと痛切



に感じました。スタートアップ企業も若い人が経営者ですけど弁護士の方は半分以上女性の方でしかも大学の時、司法試験を通過して卒業後は海外の弁護士事務所に行って海外の大学でニューヨーク州法とか勉強して日本の社会で活躍していらっしゃる。日本国内の問題だけじゃなくて企業間での国際的な問題とか そういった紛争なんかも積極的に対処していらっしゃるという方が結構多かったなと思います。

**小関：** 次に乃万さんお願いできますか。

**乃万：** 先ほどの話でも触れましたが、社会の仕組みみたいなものがまずあってその上で一人一人が人生設計をしているのだと思います。中国の場合は、能力とか個性を社会の発展にどう生かすかという発想、意識の上に立って多様性が成り立っていると思います。それに伴っているような制度も出来上がっており、男女格差とかいう以前に個人と社会がその多様性を淡々と受け止めていると思います。個人の意識と社会の受け皿の両輪がどれだけ噛み合っているのかという差が、日本と中国の差につながっていると思います。日本は制度やあるべき論が先行し、形ばかりどんどんいじくるんですが、個人と社会の両輪が噛み合わず、制度や理想に現実が追いついていないというのが日本の現実ではないでしょうか。一方、直近の中国は国の発展の為に包括的にいろんな人の能力を生かそうとし、チャンスはあるよ、頑張っってねっていうのですが、最近の経済実態は停滞悪化しており現実には噛み合わなくなってきていると思います。足下は、日中どちらも両輪がうまく噛み合っていないと思いますが、男女格差問題からだけ言うと中国の方が先行しているように思います。



**小関：** ありがとうございます。ではこのテーマについては最後ですが斎藤さんお願いできますか。

**斎藤：** インドネシアの場合、昔の日本と同じで女性は家を守って子供を育てるといった基本的な考え方は根底にあると思います。一方で、4、5年前になりますが、ジャカルタで労働省を訪問した時のことですが、そこでお会いした4人の幹部が全員女性でした。私、その時は「えっ？」と思いました。このように、女性が家にいるというのは建前で、実際は女性上位の社会じゃないかな、と認識を新たにすることもありました。女性の社会的な地位は日本以上に高いと感じています。日本も1986年に男女雇用機会均等法ができましたが、十数年間は経過措置で努力義務と言われていました。私がいた職場でも男女が同一条件での採用になりましたが、なかなか管理職になる女性が出てこないのですね。まだまだ男優位の考え方から日本社会が抜け切れてないので、ジェンダーギャップ指数も日本は上がってこれないのは当たり前かなと感じています。

**小関：** ありがとうございます。インドネシアとは社会的なものが違うのかなというふうにも今お聞きして思いました。

### ＜各国女性の活躍に期待すること＞

**小関：** 最後のテーマになります。各国女性の活躍に期待することということで各国の女性とか日本の女性に期待するところとかのお話をお願いできたらと思います。では中本さんから。

**中本：** 各国の女性よりも日本の女性に期待したいなというのが正直なところですね。



斉藤さんからのお話にもありましたが、私の前職の会社も男女雇用均等法に先駆けて84年ぐらいから女性の総合職を大量採用しました。40年近く経って60人の男性の同期のうち40人ぐらい残りましたが、女性の総合職は40人採用したけど1人も残らなかったです。かなり早い段階で辞めていかれました。日本の女性の方にも頑張っていたきたい。それと日本の社会はまだまだ閉鎖的ですけど、アジア風の学生の女性の方も機会あれば日本で就職して日本の社会を変えていただきたいなというのが私の率直な意見です。

**小関：** ありがとうございます。なかなか日本に来てくださいと言いつらい雰囲気になってきましたが。鎮目さんお願いします。

**鎮目：** 私も中本さんと基本的に同じですけども、タイは十分女性が活躍している社会だと思いますので、むしろ日本の女性に活躍していただけたらなと思います。日本を離れている間に日本のバブルが崩壊してどんどん経済的に後退している状態ですので、日本を経済再生させるには女性が活躍できるようにすることが大きいと思います。日本は女性が活躍できない社会でもこれだけ維持できています。もし日本の社会が、政治も医療も、法曹界もそれから一般の民間企業も女性をもっと活躍できるようになったらかなり日本のパワーになると思います。日本の経済再生の大きな力になりますよ。私は日本の女性が活躍できるような社会になっていただけたらいいなというふうに思っています。

**小関：** ありがとうございます。日本の女性へのエールということで、ちょっと風向きが変わってきたような感じです。では、北郷さんお願いします。

**北郷：** やっぱり世界は急激に変わってきています。インターネットも普及し、どこにいても海外とコミュニケーションができるという社会で大切なのは語学力ですね。自分の意見をちゃんと伝えて、相手に理解してもらおうということ。それから多様性を理解して相手を尊重するということが大切かなと思います。それから専門知識ですね。自分が一体何をやりたいかということを見極めて専門知識を伸ばしていくということが大切かなと思います。また、ますます国際性というのが求められると思います。常に新しいものを学んでいくということが大切かなと思います。

**小関：** ありがとうございます。それぞれの能力で各国の女性も頑張っていることですね。語学に加えて例えばITとか経理、そういった専門分野をもつことが鬼に金棒になるのかと思います。では乃万さんお願いできますでしょうか。

**乃万：** はい。中国の女性に対する印象はとにかく強いつということ、自己主張が強いということです。彼女たちの価値観には、自分を認めてほしい、ちゃんと受け入れてほしいという思いがすごくあると思います。日中とも、社会や周りが女性に何を期待しているのか、彼女達が社会に何を期待しているのかを理解するのがまず先決だと思います。そして、自分の体験や経験を共有し励ましてあげたい、次のステップへ続くページを一緒にめくりたい、そういうふうに思います。彼女たちの願う幸せは何なのか、それは個としての自己実現だったり、自己肯定感だったり、自己有用性だったりすると思います。最後に、それぞれの国の社会背景によって意識のレベルや幸せ感は違うと思いますが、将来設計するときに語学がすごく力になること、語学によってボーダーを越え、自分の人生を切り拓くことが可能になることをメッセージとして伝えたいと思います。

**小関：** ありがとうございます。やっぱり能力とかで強みをもっと伸ばして行ってくださいというメッセージと受け取ってよろしいですか。ありがとうございます。あと斎藤さんお願いします。

**斎藤：** ご質問の主旨から外れてしまい恐縮ですが、最近の日本の若い人たちの内向き思考、これがとても気になっています。世界を相手にビジネスをする企業でも、今の若い社員は海外勤務はしたくない、自分は日本で仕事できればいいのだということを言う人が非常に多いそうです。今年、アメリカのバイデン大統領が「日本人は外国人が嫌い」と発言して物議を醸しました。日本の移民政策に関する言及の一部が切り取られたものだと思いますが、今の日本の社会は、労働者としての外国人はウェルカムだけれど、生活者としての外国人はいらないという風潮が一部にあると思います。そして、それが若い人たちにも影響したのではないかという気がしてなりません。私は今、ジャカルタにいる知人から頼まれて、技能実習生としてこれから日本に来ようという若者に対し、オンラインで来日前のブラッシュアップ日本語会話の練習相手になっています。そこで感じるのは、彼らの目の輝きです。従って、日本の若者も世界へ打って出るんだ…という気持ちに切り替えていかないと、本当に日本は世界から取り残されてしまうんじゃないかと危惧しています。

**小関：** 現地の方というよりはどちらかという日本若者に対するエールですね。ありがとうございます。

最後に私の意見を申し上げます。ベトナムの女性に期待するところとしては新しく企業とかを起業してもいいのいかないかと思っています。成功例をご紹介しますがハノイのニッコーホテルでスタッフとして勤めていたメンバーがスピンアウトして会社を興しました。企業の通勤のために車とドライバーを派遣する会社ですが、よく日本人と日本の企業の性格を知っているので日系企業を取り込んで大成功していました。語学を活かして両国の間をつなぐ事業を起業してもいいのではないかと期待しています。

クロージングということでもとめたいと思いますけども、日本とインドネシアは除いて既に中国、タイ、ベトナムはもう女性が十分活躍しているという議論だったと思います。振り返って日本の女性あるいは若者全般はもうちょっと頑張ってくださいというようなご意見が聞こえてきたように思います。クロージングの最後に奥山さんお願いします。

**奥山：** このテーマで話すのはだいたい女性が主張したり、世の中の不満を言ったりする座談会というのが多いので、男性ばかりの座談会でどうなることかと思いましたが、非常に興味深く、心強く思いました。女性を入れたほうがいいのではという声もあったのですが、男性の皆さんが非常に柔軟な視点を持ってらっしゃるということに安心しました。実際、私自身40歳ぐらいまで主婦として子育て、介護をやって、それから社会に出たものですから家にいる間は歯がゆい思いをしていたのです。これからの若い女性に活躍してほしいなと思います。もう一つこのテーマが非常に日本的な視点だというふうにおっしゃられたのが、とても印象に残りました。どうもありがとうございました。

## 編集後記

アジ風新聞の I メイト交流欄で紹介しきれない交流例を、別冊にして取り上げてきて、ほぼ 20 年。異文化コミュニケーションの醍醐味を味わえることができ、楽しかった。この度編集委員としての役割を終えるにあたり、座談会の司会後の感想を書かせていただく。

交流校を卒業しても、10 年近く OB・OG としてアジ風につながってくれる先輩たちは、アジ風にとって貴重な財産である、と日頃より思っているが、今回の座談会でも強く感じた。彼らを支えてくださっている元 I メイト会員にあらためて感謝する。アジ風で日常的に外国人の若者と接している自分から見ると、一般の日本人とは少し乖離があるな、としばしば思う。

近所の女性たちとの会話では、特にアジア系外国人に対する先入観や偏見を感じ取る機会が多いが、アジ風はそのステレオタイプを正していく責務がある、と日頃より思っていて、今回の座談会はその思いを再確認する大変有意義な機会であった。

上 高子

「アジアの女性活躍について考える」というテーマで現地の体験談座談会の司会を勤めさせていただきました。地域差や時間差はあるものの、アジア各国ではかなり前から女性が社会に出ることが一般化していたようです。自分自身駐在先で多くの女性に助けられたことを思い出しました。座談会で特に感じたのはアジア各国と日本の意識差でしょうか？女性活躍が座談会のテーマになること自身日本が特異なところという意見が印象的でした。一方で男女格差が依然と残る現実もアジ風 OB・OG の声として聞こえてきます。ただ、間違いなく今後男女の差は縮小していくと思います。アジ風の学生さんたちは自信をもって活躍の場を拡げていただければ幸いです。

小関 高志

田舎の典型的な明治、大正、昭和の 3 世代家庭で、大自然の懷に抱かれ家族に囲まれ、何の考えもなく育ちました。今になって、目には見えなかったけれど大きな要石であった母に思いが寄ってゆきます。

1 月 15 日の女正月には、近所の婦人達が集い、炬燵に入ってそれは楽しそうだったこと。正月とお盆に里に出かけた折の弾けそうな輝く笑顔は、嫁を脱ぎ捨て、自分を取り戻す、何にも代え難いひとときだったのでしょう。それは世相が変わった今でもまだ続いているかもしれません。声高には言えないところでの、通奏低音が聞こえます。

20 号では若人の声に、皆が解き放たれる女性の活躍を信じて前進しているようで、頼もしく思いました。男性諸氏の柔軟さでも。軽やかな紙風船のような思考が、大きく高く上がるバルーンになることを願います。

『別冊』20 号を掌に受け読んでくださるみな様に、制作を引き受けて下さった PCC 大洋の岡吉明さまに、こころよりお礼申し上げます。

原谷 洋美

M E M O

---

---

---

---

別冊 Iメイト便り 第 20 号

「Iメイト交流の愉しみ」

ーアジア風に乗って Iメイト交流はひろがるー

特集：アジアの女性活躍について考える

発行日 2024 年 10 月 10 日

発行者 NPO 法人

アジアの新しい風

〒 154-0016

東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414

HP : <http://www.npo-asia.org>

E-mail : [new-wind2006@npo-asia.org](mailto:new-wind2006@npo-asia.org)

制 作 PCC 大洋

---

---